

「卒アル」 品川浩幸

1. 写真撮影

―1996年―

音楽。(諦念、ブンガンガ／戸川純)

幕が開くと、舞台には上からつるされた木製のフレーム。  
突然、女子高生が飛び込んでくると、音楽途切れる。

三沢 34番、三沢ひかるです。遅くなりましたあつ！

友達の声。

(奈美)  
ひかる、遅い。

(真由)  
何、やってたのお？

三沢 ゴメン。ちよっと、職員室に呼び出しくらってて。：何か、思ってたより早かったねえ、撮影。

(詩織)  
早く。写真屋さん、待ってたんだから。

三沢 (写真屋に向かって) ああ、すみません。じゃ、かわいく撮って下さい。よろしくお願いしまーす。

三沢 三沢、席につく。

(律子)  
何、それ？ずーずーしい。

三沢 うるさい！…ってか、アンタら、いつまでいんのよ。出てきなよ。

(真由)  
いいから、いいから。アタシ達に任せといて。

三沢 ええ？マジで？

(ミク)  
ほら、スマイル、スマイル！

三沢 …：そう言われると、できないもんだなあ。

と、そこへ男子生徒、神田が走り込んで来る。

神田 …あ、間に合った？

皆 …神田。

神田 よかった。セーフ。

(美津紀)  
いや、完全にアウトでしょ。

神田 いや、だって、まだ三沢撮ってんじゃん。

(奈実)  
ひかるも遅刻。

三沢 アンタ、何やってたの？

神田 いや、すっかり忘れてた。

皆 忘れてたあ？

神田 いや、でも駅で土屋に聞いてさ、ダッシュで戻って来た。

(律子)  
ってか、ウチらがツツチーに頼んだの。今日撮らなかつたら、写真屋さん、二度手間になるでしょ？

神田 あ、すみません。神田智史です。

三沢 カンちゃん、クラスと番号。

神田 あ…2組の7番です。…ってか、何、このギャラリー？

三沢 皆もコレで撮ったんだって。

神田 完全に罰ゲームでしょ、コレ。

(美津紀)  
違う。こだわりって言って。

2人 こだわり？

(さやか)  
だってどうせならいい卒アルにしたいじゃん？

(あずさ)  
そう、そう。毎日見ても見飽きないヤツ。

神田 いや、卒アル毎日、見ないでしょ？

(詩織) だから、毎日でも見たくなるアルバム、作りたいの。

(真由) そのためには、自分はもちろん、クラス全員がいい顔してなきやダメじゃん？

(ミク) だから、アドバイスしてあげてんの。

2人 …アドバイス？

(詩織) 神田くん、そっちのカメラね。

神田 あ、はい。

(奈美) それじゃ、スマイルね。写真屋さん、お願いします。

カシヤ！

(詩織) …何か、固いよなあ。

神田 誰が固くしてんだよ？

(美津紀) それじゃ、生徒手帳の写真じゃん。

三沢 別にそれでいいんだけど。

(詩織) もつとりラックス。2人とも自然な感じで。

三沢 無理だろ、この状況で。完全にヘソ曲げた。

(ミク) 何か、ハッピーなシチュエーション、想像してみなよ。

三沢 ハッピー？

(さやか) 例えば、部活の試合で勝ったとか。

三沢 あ、それいい。

(あずさ) 優勝、おめでどう！

皆  
イエッ！

神田  
いや、オレ、3年間バリバリの帰宅部だから。

(律子)  
めんどクセえ。

(真由)  
家帰って、何やってたの、この3年？

神田  
ま、ゲーム・ボーイ？

(美津紀)  
ありえなくない。

(詩織)  
じゃさ、ゲームのハイスコア、更新したとか。

神田  
あ、それなら行けそう。

(奈美)  
行くよ、スマイル。せーの：

皆  
イエッ！

カシャ！

(美津紀)  
ホラ、神田、目えつぶった。

カシャ！

(律子)  
ひかる、はみ出てる。

カシャ！

(詩織)  
そう、そう、いい感じ。

何か、自然になってきた。

じゃ、ラスト行くよ、せーの、ダブルピース…

イエッ！

カシャ！

皆

(奈美)

(ミク)

(詩織)

(律子)

(美津紀)

皆

(奈美)

神田

(詩織)

(美津紀)

神田

(真由)

(律子)

神田

皆

## 2. 再会

音楽。(蛹化の女／戸川純)

そこへ3年2組の生徒達が現れる。

(卒アルの写真に向かって) …皆、久しぶり。

(卒アルの写真に向かって) ホント。何年ぶり？

前、開いたのって、いつだっけ？…何だか思い出せないくらい、昔。

まったく、それドコじゃなかったもんね。

就職。結婚。

出産。育児。

閉じてから開くまでのインターバルがだんだん長くなるんだよね。特に育児に入ったら…。

言ってる。そんな暇あったら寝てた。

ホントに久し振り。…奈美。

…ミク。

…あずさ。

美津紀。…相変わらず元気そう。

あれ？さやかは？

ここだよ、真由。

詩織も変わりない？

うん。…皆、あの頃のまんま。

そりゃ、そうだよ。だってコレ、卒アル写真だもん。

詩織 そうだね。

皆 あははは…。

奈美 それにしても、その顔。相変わらず、痛いなあ、ひかる。

三沢 …は？何、それ？ケンカ売ってんの？

詩織 まあ、まあ。…ひかるも変わりない？

三沢 アタシも相変わらず。…と、言いたい所だけど、実はちよつと参ってて…。

ミク 何、何？どうした？

三沢 息子がどうやら、反抗期。

皆 …ああ。

三沢 塾から電話がかかってきて、どうもサボってたみたいなの。で、その事問いただしたら、逆ギレして…。

皆 …はい、はい。

三沢 ホント、強情っぱりで、2階に上がったきり、ゴハンも食べないの。まったく、誰に似たのか…。

奈美 そりゃ、アンタだろ？

真由 そんなの大丈夫。お腹空いたら、ケロつと出てくるって。

小宮 ウチ、一人っ子でさ。男の子だし、今イチ、扱いわからないんだよね。

美津紀 そんなん放つときゃいいのよ。親がイチイチ、オロオロしてちゃ、ダメ。

皆 …そう、そう。

ミク …何か、皆、変。

皆 …は？

ミク …写真はあの頃のまんまなのに、言ってること、お母さんっぽい。

あずさ そりや、毎日お母さんやってるからね。

ミク しばらく見ないうちに、皆ずいぶん落ち着いたっていうか…。

奈美 いや、いや、まだ落ち着けないでしょ。子育て一段落したら、次はパート。

詩織 ああ、アタシも始めた。また看護師。

あずさ ウチも。子供、私立だからさ…。

さやか 私立？

あずさ うん。東京って、皆、私立行かせるの。ウチも、中学から…。

ミク あずさ、東京なんだ…。

あずさ うん。江東区。スカイツリーの足下？

三沢 何か、自慢入ってる？

詩織 まだまだ大変だよ。いくら食費や光熱費節約しても、子供の教育費だけは節約できない。

皆 そう、そう。

(律子) あーあ。聞いてれば何だか、景気の悪い話ばかり。

奈美 おっと、その声は…？

皆 ……律子！

律子 (フレームを手に、出て来て) アタシは、卒アル、毎晩開いてるけど。

真由 そりやアンタはいいわよ。「お一人様」だもん。

三沢 直訳すると「行き遅れ」。

律子 何か、言った？

ミク ううん。やっぱシングルは違うな。何ていうの？野暮ったい生活感がない。

奈美 だって、お金も時間も、ぜーんぶ自由に使えるんでしょ？

律子 まあね。先週、ちよつと時間ができたから、フラつとケアンズ行ってきた。

皆 ケアンズ？

あずさ ……にフラつと？

三沢 ……てか、ケアンズって、どこ？

さやか オーストラリア。

律子 スキューバとか楽しかったけど、ちよつぱり反省。向こうの紫外線ハンパなくて、帰ってからずっとエステ通い。

皆 エステ？

律子 そ。だから、毎晩お肌チェックしてんの、この卒アルで。…やだ。何か、シミ出て来た？

奈美 そりゃシミも出て来るよ。普通に暮らしてたって。

律子 それに引き替え、この頃のアタシ、シミ一つない。

詩織 部活で炎天下とか、平気でいたのに。

三沢 今、そのツケが回ってきてんの？

律子 スッピンで、マユも髪も何もいじってなくて、こんなにモツさいのにさあ…。

真由 ホント、肌だけは叶わないよなあ。

美津紀 言えてる。

皆 ……若い。

皆、卒アルの自分に見入る。

神田 あのさ…。

皆 ……。



神田 おーい……。

皆 ……。

神田 あれ？…ちょっと、何ですか？…もしかして、無視？

三沢 ……は？

神田 マジ限界なんですけど。腕、プルプル震えて、ヨダレも垂れてきちゃって…。

律子 汚いなあ。

神田 ああ、もうダメ！

奈美 ゴメン。何か今、アンタにかまってる余裕なくなった。

神田 ……は？

ミク ま、確かにインパクトはあるよ。

詩織 うん。卒アル開いたら、まずパツと目に飛び込んでくる。

神田 ……でしょ？

美津紀 この顔には、ずいぶん笑わせてもらったよね。

神田 ……だろうね？

真由 ある意味、感謝してるけど。

神田 いや、感謝まで言われると、却って…

奈美 でも、もう飽きた。

神田 ……は？

美津紀 20年もアンタの顔で笑えない。

神田 ……え？

律子  
てか、むしろ迷惑。

神田  
迷惑？

律子  
だって他人に卒アル見せると、まず「コイツ何？」って皆食いつくじゃん？そっから説明しなくちゃで、もう面倒臭くって…。

神田  
説明って、ちゃんと説明したんだろ？オレは被害者だって。

美津紀  
何よ。被害者って、また人聞きの悪い…。

神田  
被害者でしょ？皆、普通にスマしてるじゃん。オレ達だけだよ、こんな顔してんの。

三沢  
ハメられたねえ、完全に。

美津紀  
ハメられたってのも人聞き悪いよ。

奈美  
そうだよ。言うなら、エールって言うって。

2人  
エール？

律子  
そう、そう。このダブルピースは、2組女子全員からひかるに贈るエール。

三沢  
そりゃ確かに応援は要請したけど、こんなエール求めてなかった。

神田  
だからエールって何だよ？

美津紀  
相変わらず勘がニブいね。

神田  
…は？

律子  
だから、コレはひかるとアンタを…。

三沢  
ストップ！…いいの。シーっ！

神田  
…とにかく、いたずらの度、超してるだろ？オレ、卒業式の日、皆に笑われてから、一切開いてないし。

詩織  
は？20年間ずっと？

神田  
ってか、卒アル実家に置いてった。今どこにあるかもわからない。

皆 マジで？

律子 じゃ、いいじゃん。

神田 ……は？

律子 ややこしい説明は省こう。つてか、一番話がスムーズに済むんだよね？「クラスーのお調子者」っていうのが。

神田 ……は？

奈美 あ、アタシも結局そうだった。皆も一発で納得するの。コイツ、「クラスーのお調子者」。

神田 やめる！…この日本のあちこちでオレは「お調子者」呼ばわりされてるのか？カワイソ過ぎるだろ！？

美津紀 こいつ、こんな自意識過剰だったっけ？

真由 男のクセにいちいち細かいなあ。

神田 お前からこそ、女のクセに、ああ言えばこう言う。こう言えばああ言う。ホント理系の女子つてヤツは…。

律子 は？理系の女子が、何？

神田 ……は？いや、それは…。

三沢 アンタ、今、デツカイ地雷踏んだかもよ？

美津紀 で、何？理系の女子は…理屈っぽい？

神田 いや、そんなこと…。

奈美 理系の女子は…カワイくない？

神田 いや、とんでもない。

律子 じゃ、何？理系の女子は…？

神田 ……いつまで経っても、結束固いなんて。

三沢 そりやそうだよ。ムサツ苦しい男どもの中で、たった9人。可憐に1年過ごしてきたんだ。絆は固いよ。

神田 ってか、コレ理系の卒アルだろ？何で男がいないんだよ？

律子 ああ、いたね。何か、こつから向こうの方。

神田 何で、お前だけウロチョロ歩き回れるんだ？自由奔放過ぎるだろ？

美津紀 それにしても、2組の男子。…どんなのいたっけ？

神田 じゃ、呼んでやるよ。おい、皆、こつち来いって。

男達 ウースっ！

フレームを手にした男子達がやって来る。

神田 おお、懐かしい！土屋、小西、松井！

美津紀 またずいぶんマニアックなを呼んだな。

三沢 皆、アンタとツルんでた奴らじゃない。

奈美 他にもいたでしょ？サッカー部の関谷クンとか、バスケ部の宗方クンとか…。

神田 あいつら、もつとページのハジっこの方だ。

土屋 土屋です。今は親父のあと継いで、工務店やっています。

神田 社長だぞ。土屋社長！

女子達 おお…。(バラバラと拍手)

土屋 でも最近不景気です。で、小口の注文も受けるようにしたんだ。何かあったら電話して。何でもやるから。(名刺を配り出す)

女子達 (名刺を受け取り口々に)…うん、ありがと。

土屋 全くさ、カーマとかカインズとかのホームセンター？アイツらのおかげでコッチは商売上がったんだよ。

真由 …大変だ。

土屋 とにかく何でもやるからさ。子守でも、犬の散歩でも。

三沢 ……必死だねえ。

神田 次、小西。

小西 お久しぶりです。小西です。

神田 小西は大手ゼネコンに勤めてて、近々チーフマネージャーに昇格する予定…。

小西 いや、その話はどうにポシヤって…。

神田 マジで？

小西 会社、外資系に吸収合併されちゃって。そしたら、ある日突然、会議、英語になっちゃって。で、ホラ、オレ英語まるでダメじゃん？で、すぐさまリストラされて…。

神田 え？じゃ、今何やってんの？

小西 駅前の「じゃんから」で受付やってる。あ、よかったら、割引券…。(皆に配る)

さやか ありがとう。

詩織 コレはマジでうれしい。

神田 で、松井。マツちゃんは…？

松井 いや、オレは相変わらずだよ。

神田 相変わらずって…。

松井 夢、追いかけてる。

皆 ……夢？

神田 それって、もしかして…声優？

松井 ああ。

神田 すごい。すごいよ、マツちゃん。未だに夢に向かってまっしぐらかよ？

松井 今度、A V E Xの声優タレントコースに入るんだ。

皆 …… A V E X ?

神田 マツちゃん、確か、卒業して「代アニ」に行ったんじゃない？

松井 ああ。名古屋校を皮切りに、東京、大阪、仙台、福岡、札幌、広島と全国の「代々木アニメーション学院」を渡り歩き…。  
三沢 それって意味ある？

ミク 「代アニ」って、ただの専門学校でしょ？

松井 あと金沢校に通えば、全国の「代アニ」を制覇することになったんだけどさ。さすがに、もういいかなあって…。  
律子 いや、それ向こうのセリフでしょ？

神田 ……で、A V E X に代えるんだ。

松井 うん。A V E X はエンタメの事務所だからね。声優だけじゃなく、アニソン歌手の道も開けるんだ。スゴイだろ？  
さやか でも、また専門学校でしょ？

真由 38歳で専門学校って…。

松井 夢は大きく持たなきゃ。38歳だぜ？声優だけじゃ物足りない。アニソンにも挑戦しなきゃ。

美津紀 まずは声優になつてから持とうよ、次の夢。

奈美 ブっちゃけ、学費とかどうしてんの？

三沢 まさか、まだスネかじってないよね？

松井 もちろん。バイトはしてるよ。「王将」で餃子、焼いてる。

皆 ……へえ。

松井 「王将」はスゴいよ。名古屋、東京、大阪、仙台、福岡、札幌、広島。「代アニ」のある街には、必ず「王将」ありなんだ。  
詩織 全国チェーンだからね。

松井 広島の「王将」では店長にならないかって誘われたんだけど、きっぱり断った。

さやか

断った？

三沢

何で？38歳で「王将」の店長。アリだと思っけど…。

松井

理由は単純。「王将」の店長がボクの夢じゃないってだけのこと。

奈美

でも、今日もシフト入ってるんでしょ？

松井

うん。5時から。…あ、そろそろ行かないと。

神田

あ…そうなんだ。

松井

じゃ、よかつたら「餃子」のタダ券。全国どこでも使えるよ…。(配り始める)

皆

マジで？

あずさ

それ、本気でうれしい！

三沢

コッチもちようだい！

松井

それじゃ、また。

土屋

何か困ったことあったら、いつでも電話して。何でもやるから。

小西

ドリンクとかならサービスできるから。「じゃんから」駅前店、来てよね。

女子達

(口々に)…う、うん。ありがと。

松井

それじゃあ…。

男子達

またねえ。

男子達

走り去る。

美津紀

果たして、次の「また」はいつ来ることやら。

真由

また、長くなるか？

詩織

…次はミクの命日。

奈美

アンタ、毎年命日に…？

詩織

うん。卒アル開くことにしてるの。

皆

へえ。

あずさ

さすが委員長。

ミク

それに引き換え、皆ずいぶんご無沙汰じゃない？

皆

…すみません。

ミク

…なんてね。いいよ。こうして今日会えたから。

律子

あーあ。次はもつとイケメンと会いたい。

奈美

サッカー部の関谷クンとか、バスケット部の宗方クンとか…。

神田

だからアイツら向こうの方なの。

さやか

…あ、いけない。そろそろ行かなきゃ。

美津紀

アタシも、パートの時間。今夜は夜勤なんだ。

三沢

お、稼ぐねえ。

詩織

それじゃ、また。

皆

…また。

### 3. Skype(1)

―2016年―

音楽（ヒステリア／戸川純）！

ブルー暗転。

残されたのは三沢と神田。

明かりが変わると、2人は、今、SKYPEで話している。



三沢 それにしても、アンタの変わらないこと。高校生のまんまじゃん。

神田 それは言い過ぎでしょ？

三沢 何で？パソコンの画面ごしだから？それか、アンタSkypeに何かアンチエイジング的な設定したとか？

神田 そんな小細工しないって。大体、あるかよ？Skypeにアンチエイジング機能なんて…。

三沢 だって、カンちゃん、パソコンとか詳しいし…。

神田 じゃ、何？久しぶりに再会して、変わってないとかダメなわけ？

三沢 うん。ダメ。何っていうの？…こう、緊張感に欠けるわけ。

神田 緊張感？

三沢 だってね、ホラ、FACEBOOKで友達申請したでしょ？

神田 ……うん。

三沢 クリックするのは、結構勇気要ったんだから。だって、こうして話すのって…やだ、卒業式以来？

神田 そうなるかあ。

三沢 成人式とかも来なかったし。

神田 ああ、なかなか戻って来れなくてさ。

三沢 何だ、かんだで、気に入っちゃったんだね、そっち。

神田 ま、住めば都ってヤツかな。

三沢 こんな、20年ぶりに連絡するんだもん。Skypeの画面見るのも、実はすごい緊張して、カンちゃん、デブでハゲだったらどうしようって…。そしたら、高3のまんまだもん。何かさ、この感じ、昨日の放課後別れて、今朝会ったみたいじゃない？

神田 言える。20年なんて時の流れ、一瞬で飛び越えたね。

三沢 あーあ。何か損した。緊張して。

神田 そっちだって、相変わらずじゃん。

三沢 マジで？どこ？どのあたり？

神田 だから、そういう：一人で突っ走る所？

三沢 いや、そういうんじゃない、ビジュアル的にはどうなのよ？

神田 そうだなあ：。あ、声は高3のまんま。

三沢 声はビジュアルじゃない。

神田 いや、マジで目つぶって声だけ聞いてると、タイムスリップしたみたい。

三沢 だから目、開けなつて。これ電話じゃない。S k y p e !

神田 アレだよ。最近流行の：ギャップ萌え？

三沢 全然フォローになつてない。

神田 いや、前から思ってたんだけどね。三沢の声って、吹き替えみたいなんだよね？

三沢 吹き替え？

神田 うん。外人の。ホラ、夜中の通販のCMなんかであるじゃん？「ワオ。見て。こんなにパッキリ割れてきた。」みたいな。

三沢 「割れてきた」って何が？

神田 腹筋だよ。

三沢 腹筋？

神田 よくあるんだつて。腹に巻いてるだけで腹筋割れるみたいなCM。

三沢 ぜったいウソだよ、それ？

神田 なあ、ちよつとやってみせてよ。

三沢 マジで？：何だっけ？「パツチリ」？「パツタリ」？

神田 「パツチリ」。「ワオ！見て。こんなにパッキリ割れてきた。」

三沢 「ワオ！見て。こんなにパツクリ割れてきた！」

神田 そう、そう。それ、それ。

三沢 そんな風に思われてたの、アタシの声？

神田 オレだけじゃない。皆言ってたもん。

三沢 そうか？そんなの初めてだよ？

神田 ね、次は別のヤツ。

三沢 別？ちよっとアタシの声、オモチャにしないでよ。

神田 皆でよく考えてたんだって。三沢に言わせたいセリフ。

三沢 どうせエロい事考えてたんでしょ？バカだね、男子って。

神田 そうだな……。じゃ、「寝ちゃった。」とか。

三沢 「来ちゃった」？……。どこに？

神田 オレン家だよ。

三沢 行くワケないじゃん。奥サンや子供に何て挨拶するの？

神田 いないよ。今、別々で暮らしてるの。

三沢 は？別居？……。ちよっと、どうしたの？

神田 いいんだって、そんなこと。じゃ、行くよ。ピンポーンってインターホンが鳴って、オレがどちら様ですか？」って聞くから、「ひ

三沢 好きだよね、男ってそういうの。

神田 いいから。行くよ。……。インターホン。「ピンポーン。」

三沢 ……て、何、目えつぶってんの？

神田 しまった。丸見えだった！

2人 あははははは……！

神田 あ、そう言えば、こないだは、ありがとな。親父の葬式、わざわざ来てくれて。

三沢 ううん。……この度はご愁傷様でした。

神田 いえ、いえ。こちらこそどうも……。

三沢 ……あは。急に大人になった。

神田 当然でしょ、38歳だぜ？

三沢 やればできるじゃん。

神田 オレ達も、親亡くす歳になったんだなあ。

三沢 ホント。……お父さん、おいくつだった？

神田 72歳。……三沢んトコは、ご両親、お元氣？

三沢 うん。おかげさまで。……実家も、主人とこも。

神田 あ、ゴメン。……三沢じゃないね。

三沢 ……坂本。

神田 ……へえ。坂本サンか。

三沢 何か、変な感じ。

神田 ……え？

三沢 こんなに間近で話してるのに、カンちゃん、今、北海道なんですよ？

神田 はい。北見にあります。

三沢 こんな時代が来るなんて、思ってもなかったね、この……卒アルの頃には。

神田 ホントだ。こんな風にまたお前と話すときが来るなんて。

三沢 カンちゃん、北見行つたつて聞いて、何か、もう永遠に会えないんじゃないかって思つてた。

神田 永遠は大袈裟でしょ。

三沢 何か、そんな気がしたの、あの頃は。

神田 子供だったから、な。

三沢 ……うん、子供だった。…ね、卒アル見てる？

神田 ああ、見てる。葬式で実家帰つたとき見つけてき、こつち持ってきたんだ。

三沢 開くの卒業式以来なら、懐かしさ、ハンパないでしょ？

神田 うん。何か、洪水みたい。

三沢 洪水？

神田 うん。記憶の洪水。あの頃のまんまのツツチーに、コニたんや、マツちゃんが、うわあくつてオレの頭ん中、駆け巡つてる。

三沢 うん？…何でアイツら？今、パソコンに写つてるの、アタシでしょ？

神田 おーい！ツツチー、コニたん、マツちゃん！

三沢 ちよつと、何、これ？…もう、勝手にすれば！

#### 4. 理系の女子

音楽(MEN・S JUNAN/戸川純)！

小宮、プリプリと席を立つ。

神田、土屋、小西、松井、岡本がやって来て、机と椅子を運び入れると、そこは3年2組の教室。

—1996年—

…マジっ？

岡本 男達  
マジ、マジ。

神田 …で、相手は？

岡本 お前ら、知ってるかなあ。…文系だし。

土屋 文系女子か？

松井 そりゃ、そうでしょ。そりゃ、文系でしょう、女子は。

そこへ、2組の女子がドヤドヤと入って来る。

三沢 ああ、腹減った。

女子達、弁当を開き始める。

小西 …早弁だよ。

土屋 まだ1限の放課だろ？

神田 これだから、理系女子は…。

松井 文系女子はこんな事しない。

ゴハンはきちんとゴハンの時間に…。

見ろ、あの弁当箱。

神田 ドカ弁だよ、女子のクセに。

松井 文系女子はこんな事しない。

小っちゃくて、カワイイ弁当箱で食べるんだ。

それも、フォークとスプーンで。

あと、文系女子は机をくつつけて食べる。

岡本 コイツら、テメエの席で、普通に食ってる。

神田 理系女子は、群れないんだ。一匹狼だからね。

小西 見ろ、アイツ、パン4つだぜ。

松井 文系女子はあんなに食わない。

土屋 パンは多くても2つだ。

神田 しかも、メロンパンとか、クリームパンとか、お菓子みたいなパンがお好みだ。

松井 決して奴らのように、コロッケパンとか焼きソバパンは食さない。

ミク ね。アタシの食べて。

皆 マジで？

詩織 アンタ、また…？

残すと親に悪いし…。

それもそうだね。

(口々に) いただきます。

…ハイエナかよ。

普通、まず最初に理由聞くだろ？「どうして食べないの？」

つてか、この時間は「食べたくない。」のが普通。

いつもおいしいよね、ミクのお弁当って。

ホント、ミクのママ、料理の天才だよ。

かわいそうに。丹精込めて作った弁当が他人の娘の腹ん中とは…。

絶対ミクさんのお母さんには内緒だ。

ああ。(シー)

それにしても、ミク、最近どうしたの？全然弁当食べないじゃん。

ミク うん。何か、最近食欲なくて。

詩織 どこか具合でも悪いの？

ミク ううん。大丈夫。

詩織 何か、悩み事とか…。

ミク …え？

律子 いや、いや。コイツに悩み事なんてないでしょ？

美津紀 いつもスマイル全開だもんねえ？

奈美 てか、もしかして、ダイエット？だとしたら、抜け駆け禁止！

ミク とか言っつて、奈美の方こそ、最近やせたでしょ？

奈美 …やっぱわかる？

女達 マジで？

奈美 マイナス200g。

女達 すごい。／やるじゃん。

土屋 いや、200gって誤差だろ？

神田 四捨五入すれば「やせてない。」ってことだぜ？。

小西 オイ、見ろ。詩織サンの弁当箱はカワイイぞ。

土屋 ホントだ。詩織サンはやっぱ別格だ。

松井 だって、確か彼女は看護志望だ。

神田 やっぱりな。純白のナースキャップが似合いそうだ。

美津紀 …詩織、アンタ足るの、そんな小さいので。



詩織 大丈夫。コレは1限の放課用。で、コレが2限の放課用で、コレは3限の放課用。で、昼放課は、コレ。  
三沢 …やるねえ、アンタ。

詩織 お腹減るとイライラしちゃって。気が付いたら、シャープペン、ボキボキに折ってた。

奈美 アンタのシャープペン、いつも新品だよな？

律子 言えてるう。

女達 あーっはっはっはっ…。

神田 …撤回。詩織サンは性格的に言って、看護師でもたぶん、外科の看護師になると思う。

松井 あと、戦場看護師。野戦病院とか。

小西 手足の2、3本吹き飛んでも動じそうにないもんな。

岡本 痛いって患者が訴えても、我慢、我慢って言うだろうな。

神田 あるいは天使のように微笑んで、無視。

土屋 そこへ行くと、文系の看護師は小児科、もしくは内科だな。

小西 言えてる。痛いって言ったら、注射を見逃してくれそうだ。

松井 やっぱ女子は文系がいいな。

岡本 何かね、文系女子は、フワフワで、柔らかいんだ。マシユマロみたいに。

神田 その点、理系女子は鉄板だよな。ビクともしないって言うか…。

三沢 …あのや。

男達 ひいっつ！

三沢 …は？

神田 いや、ゴメン。…何だった？

三沢 ……ね？皆は？何でこんなに少ないの？

神田 ああ。…次の化学は実験だから、化学室へ移動で…。

三沢 ……実験？

松井 うん。朝、金子先生が言ってた。…炎色反応だっけ？

詩織 炎色反応？

奈美 ……マジで？

女達 バンザイ！バンザイ！バンザイ！

律子 アタシ、ナトリウム、燃やしたい。あの黄色、カワイくない？

三沢 アタシ、ストロンチウムだなあ。あの深い赤見ると、何か体の芯が熱くなる。

奈美 行こ、行こ。

女達 ワーイ！

女子達、走って行く。

土屋 ……何だ、アレ？

岡本 炎色反応に大興奮かよ。

神田 金属、バーナーで燃やすだけだろ？

松井 文系女子はこんな風にはならない。

土屋 え？火って何だか、コワい。

神田 恐くなんかないよお。

土屋 マッチとか無理、無理。こするとポツて火がつくんでしょ？

神田 大丈夫。ボクに任せといて。…シユ、ボー。

土屋 凄—い。恐くないの？

神田 全然。

土屋 熱くない？

神田 大丈夫。

土屋 何か、男らしい。

神田 ああ、守りてえ。この手でマシユマロ女子を守りてえええつ！

小西 …で、オカモツちゃん、話の続き。

岡本 話？

土屋 チューだよ。チューの相手。

皆 おお…。

神田 文系女子つてどこまで聞いた。

土屋 文系の誰？

岡本 知ってるかなあ。…6組の川村。

松井 …川村のぞみ。

男達 …おお。

松井 オレ、1年のとき、一緒だった。隣の席になったこともある。

男達 マジで？

松井 いや、何か生々しいなあ。

土屋 付き合ってるの？

岡本 いや、特にそう言うのは…。

神田 は？それどうということ？付き合ってもないのに、キスって出来ちゃうわけ？

小西 まさかお前、必死で抵抗するのぞみちゃんを……？

岡本 しねえって、そんなこと。

神田 じゃあ、どうやったら、付き合ってもいない文系女子とチューなんてできるんだよ。

松井 ただの夢だったんじゃないの？あ、妄想？

岡本 な、ワケないだろ？唇の感触とか、リアルに残ってます。

男達 はあ〜っ！？

神田 うらやましい。オレには未知の感触をコイツの唇はもう既に知っている。

松井 なぜだ？なぜ、こんなラクダ顔に先を超された？

岡本 何だ？ラクダ顔って？

小西 いや、それがどうだ。今じゃすっかりキリン顔になって……。

岡本 は？何だよ、それ？ラクダとキリンで上下あんの？どっちが上なんだよ？

皆 そりゃキリンだろ？

小西 よかったな、岡本っちゃん。

岡本 いや、全然うれしくないよ！もう行くぞ。

神田 まあ、そう言わずに、師匠。教えて下さい！

岡本 ……師匠？

神田 そうです、師匠。

土屋 どうか後に続く者のために！

小西 その、極意というヤツを！

松井  
お願いします！

4人  
師匠っ！

4人、土下座。

岡本  
いや、教えるって言っても…。

小西  
…入れたんですか？

岡本  
…は？

小西  
舌。入れたんですか？

岡本  
…舌？

神田  
え？…まさか、師匠、知らないんですか？

岡本  
もちろん、知ってるよ。そして、トライもした。

4人  
…で？

岡本  
ブロックされた。前歯で。

4人  
…ブロック？

岡本  
うん。その固い前歯の感触も、リアルに残ってる。

神田  
…何だ。じゃ、そんなに背中は遠くないなあ。

岡本  
だから、チューって言っても、ちよつと事故っぽいつて言うか…。

小西  
いや、そこです。そこが知りたい。

土屋  
どうしたら、そんな事故を起こせるのか。

松井  
そのハウツーを是非！

岡本  
いや、だから事故だから…。

神田 事故は起こるもんじゃなくて、起こすものでしょ、師匠？

岡本 だから、何ちゆうか…オレ達、同チユーでさ。昔つから、地元の祭り、一緒にやってて…。  
松井 幼なじみってヤツ？

小西 理想的ですな。

岡本 で、こないだの春祭りも一緒に太鼓やって、昨日はその打ち上げでさ…。

土屋 打ち上げ。

小西 これまた理想的な。

岡本 で、アルコールとか、入るわけ。シーだけど…。

神田 ま、祭りだからね。

土屋 ある、ある、そういうの。

岡本 で、皆、結構バタバタ眠っちゃって、気が付いたら、起きてるの2人だけでさ…。

小西 あ、まさに理想的な展開。

岡本 で、花火やろうって、なって。

土屋 花火？

岡本 うん。余ってたの、もったいないし。

松井 ああ、起こるね。こりゃ、何か起こる。

神田 (土屋に) お前、川村やれ。オレ、岡本ッちゃん。

土屋 …は？

神田 で、マッちゃんは花火、コニタンは棒。

小西 …棒？

岡本 ……で、花火やりながら、久々に話し込んでさ……。

神田 ……よお、のぞみ。しばらく見ないうちに、急に大人っぽくなったよね？もう girl じゃない、Lady だね。

岡本 ……どこのエロおやじだよ？

土屋 岡本ッちゃんこそ、顔、キリンに近づいた？

岡本 人間だよ！……で、お前は何だよ？

松井 ……花火。……炎色反応。……炭酸ストロンチウムの赤から、硝酸バリウムの緑へ。

岡本 ワケわかんねえよ。……もつと普通の会話。学校の話とか、音楽の話とか……。

4人 ……ああ。

岡本 ……で、最後の花火がパタッて終わってさ。さつきまで、赤とか、黄色とか、キラキラ明るかったのが、急に音も光もなくなつて、真ッ暗闇になつちやつて。そしたら、オレ達も急に黙つちやつて……。

神田 ……のぞみ。

土屋 ……オカモつちゃん。

神田 神田と土屋、ヒシと抱き合う。

……のぞみ。

……オカモつちゃん。

そこへ、詩織がやつて来る。

……ちよつと、皆何やつてんの？金子先生、カンカンだよ？

神田と土屋、激しく抱き合っている。

……え？

(詩織を見て) ……え！？

(そうとは知らず) ツツチー、違う！

土屋

…え？

神田

舌入れたら、前歯でブロックだろ？

土屋

…あ、忘れた！

皆

…え？

神田

って事は何だ？…オレの初チュウ、お前ってこと？

土屋

…初めてにして、デイープ？

皆

え〜！？

土屋

イヤだ、こんなの、イヤだあ〜っ！

松井

土屋、走り去る。

詩織

ツッチーっ！

神田

他の3人も追いかける。

詩織

…もう、最低。

神田

…え？

詩織

この、変態っ！

神田

詩織、神田の頬を殴ると、走り去る。

詩織

音楽。(あたしもうぢき駄目になる／戸川純)

## 5. SKYPE (2)

1人残された、神田。

そこへ三沢がやって来る。

神田も席につき、SKYPEの体勢になる。

―2016年―



三沢 (涙を拭きながら) …マジやばい。お腹痛いよ。

神田 いや、いや、マジで。もうトラウマだし。

三沢 デイープキス？

神田 あれ以来、オレさ、反射的に目、開けちゃうの。

三沢 …は？

神田 だから、キス。目、つぶってできないの。何か、恐くて。

三沢 目、開けたら、相手ツツチーなんじゃないかって？

神田 相手のコにも気味悪がられたりして。シヤレにならないんだって。

三沢 病気だよ、それ…。(笑い出す)

神田 いや、笑い事じゃないんだって。おかげで全然感じないの、キス。

三沢 マジで？…不幸だ。不幸すぎる。(笑う)

神田 だから、他人の不幸、笑うなって。(笑う)

三沢 いや、コレは笑うでしょ。…ああ、何か、こんなに笑ったの久し振り。

神田 いや、久々に卒アル開いて、よかったよ。一気に謎が解けた。全部、土屋が悪いんだ。

三沢 もう、いっそのこと、路線、変更しちゃったら？案外、感じるかもよ？

神田 冗談じゃない。もう、アイツ訴えてやる。

三沢 訴えるって、カンちゃんの方からでしょ、舌入れたの？

神田 あ、そうか。

三沢 アハハ…。

神田 アハハ…。

と、そこへ三沢の義母の音がする。

(義母) ちよっと、ひかるさん、まだ起きてるの？

三沢 ……あ、ゴメン。

神田 ……え？

三沢 ……お姑さん。一緒に住んでんの。

神田 ……ああ。

(義母) こんな時間に電話？ちよっと、常識ないんじゃないかしら？

三沢 ……あ、すみません。アタシ、寝言言っちゃいましたあ？

(義母) ……寝言？

三沢 起こしちゃって、すみません。おやすみなさあ〜い。

(義母) まったく、寝言だなんて見え透いた…。

神田 ……何か、ウザイ人？

三沢 ……最低。アタシが作ったカレーや味噌汁、勝手に「我が家の味」にアレンジしちゃうような人。

神田 ……マジで？

三沢 ゴメンね。そろそろ切るね。ババアのヤツ、まだ起きてて聞き耳立ててるから。

神田 オレの方こそ、ゴメン。こんなに遅くまで。

三沢 ね？…また連絡して、いい？

神田 ……ああ、もちろん。…大丈夫なの？

三沢 うん。全然平気。

神田 それじゃ、おやすみ。

三沢

…おやすみ。

2人、SKYPEを切る。

神田、出て行く。

1人残された三沢、ため息をつき、

…マジで、ババア。死んじゃえばいいのに。

音楽。(赤い花の満開の下／戸川純)  
ブルー暗転。

## 6. ミクとのぞみ

屋上。女子高生が屋上で抱き合っている。ミクと6組の川村のぞみ  
ミクの胸に顔を埋めているのは、川村のぞみである。

ー1996年ー

…どう？

…うん。

少しは落ち着いた？

…まだ。もう少しこのままでいて。

甘えん坊だな、のぞみは。

…ドクドク言ってる。

…え？

ミクの心臓。

…マジ？アタシの心臓、鳴ってるんだ。

うん。ドク。ドク。ドク…。

…へえ。気付かなかった。

ミク

のぞみ

ミク

のぞみ

ミク

のぞみ

ミク

のぞみ

ミク

のぞみ

ミク

三沢

のぞみ 何か落ち着く。ミクの心臓の音。

ミク そう。なら、聞いてていいけど。

のぞみ あれ？何か速くなった？

ミク マジで？

のぞみ ドク、ドク、ドク、ドク、ドク、ドク、ドク……。

ミク え？何で？

のぞみ さらに加速したよ？ドク、ドク、ドク、ドク、ドク、ドク、ドク、ドク……。

ミク わかんない。アタシ、何に反応した？

のぞみ さっきのがいい。

ミク ……え？

のぞみ さっきのドク、ドク、ドク……つてくらいの速さが……。

ミク いや、そんなこと言われても……。

のぞみ 右回し？それとも左回し？（胸を回す）

ミク ……え？いや、そんなに調節できないって。

のぞみ 押せばいいの？それとも引っ張る？

ミク やめて！……人の胸、おもちやにしないで。

のぞみ ……ゴメン。

ミク これ。スイッチでも、ボタンでもないから。

のぞみ なら、コレって何なの？

ミク ……え？胸？

のぞみ 何のためにあるの？

ミク それはアレでしょ？赤ちゃんに母乳をあげるため？…少なくとも、心臓とは無関係だよ。  
のぞみ でも、赤ちゃん、いないじゃん。

ミク ……え？

のぞみ 今、母乳なんか1滴も入ってないよ？何が入ってるの、こん中？

ミク いや、何だろう？…脂肪？

のぞみ だったら、意味ある？

ミク 将来のための準備じゃない？

のぞみ でも、将来赤ちゃん産むかどうかなんて、まだわからないでしょう？

ミク そりゃ、そうだけど…。

のぞみ 赤ちゃん産まなくても、母乳溜めなくても、ずっとついてるワケじゃん？

ミク ……まあ。

のぞみ 何か、無駄じゃない？今から不確かな将来のために、こんなつけさせられて。

ミク ……でも、男と区別するための、シンボリックな役割もあるんじゃない？

のぞみ 何？そんなのいい迷惑。

ミク ……え？

のぞみ 男にないってだけで、男の性欲の対象にされて。大きいだの、小さいだの、形がどうのって、女は余計なコンプレックスに悩むわけじゃん？

ミク そう言われれば、そうかな？

のぞみ だって、大きかろうが、小さかろうが、母乳の味や、栄養に変わりはないんでしょ？

ミック うん。…だよね？

のぞみ 自分の赤ちゃんと文句言われるなら仕方ないよ？母乳の味が薄いとか、吸い口の形、吸いにくいとか？

ミック そんな赤ちゃんいららない。生意気過ぎるでしょ？

のぞみ だったら、退化しちゃえばいいのに。こんなもん。

ミック え？どういふこと？

のぞみ ここはスルっと、男子と一緒に。

ミック …え？じゃ、母乳はどうすんの？

のぞみ それも男子と出るとこ揃えればいいと思う。

ミック 言ってる意味わかんない。

のぞみ 男子は精液を出して、女子は母乳を出せばいいんじゃない？

ミック いや、それじゃオツパイあげるのに、イチイチパンツ下ろさなきゃならないってこと？メンドくさいし、お尻冷えるでしょ？

のぞみ でもフォルム的には、アッチの方が絶対くわえやすいって。

ミック やめて！エグくなってるよ、話？

のぞみ 大体、男女でついてるもんが同じなら、お互い気にすることも、されることもないじゃん？

ミック いや、違うお互いを意識するっていうのも、また大事なんじゃない？

のぞみ それがいや。何か、皆、ウソばかり。

ミック ウソって…？

のぞみ アタシはウソ、つきたくないよ。

ミック でも、そうは行かないでしょ？

のぞみ ……え？

ミク  
ウソつかないで生きてくことなんてできないよ。

のぞみ  
ミクもウソつく？

ミク  
え？そりゃ、まあね。仕方なく…。

のぞみ  
アタシにも？

ミク  
いや、まあ…。

のぞみ  
アタシはミクにウソなんかつかないよ？

ミク  
マジで？あ…ゴメン。

のぞみ  
でも、自分にはしょっちゅうウソついちゃう。

ミク  
それって、妥協みたいなヤツ？そんなの誰だってあるよ。気にしてたって、しょうがないじゃん？

のぞみ  
アタシはダメ。ウソついた後の自己嫌悪。アレが堪らない。スイッチ、オフりたくなる。ああ、マジでここがスイッチならいいの

ミク  
だから胸は心臓とは無関係。

のぞみ  
だったらココから飛び降りるとか…。

ミク  
やめて。屋上でそういうの、シャレになんないから…。考えすぎなんだよ。アンタ、マジメだから…。

のぞみ  
そんなことない。

ミク  
もう行こう？

のぞみ  
イヤ！

ミク  
のぞみ。…アタシ、心配だよ。最近アンタ、こういうのすごく増えてきた。

のぞみ  
…ゴメン。

ミク  
…何？また、クラス？

のぞみ  
…最低。

ミク 文系は女子が多いから、何かと大変なんだろうねえ。

のぞみ ホント面倒くさいよ。何か、毎日のようにヒエラルキーが変わってさあ。

ミク ヒエラルキー？

のぞみ ま、サル山みたいなもんだよ。そのボス猿や、2番手、3番手みたいのが、日替わりでコロコロ変わるの。ま、立ち入らないで、端から見てれば、楽しくもあるんだけね。

ミク でも、そうも行かないんでしょ？

のぞみ ……え？

ミク ここで、こうしてるってことは。

のぞみ ……

ミク 先生に言っつて、クラス替えてもらったら？アタシから言っつてあげようか？

のぞみ 無理だよ。そんなこと？

ミク 2組、おいだよ。ウチ、女子の間でそういうメンドくさい事とか全くないし。

のぞみ だつて理系じゃん？絶対ついてけない。

ミク 数学とかアタシのレベル知ってるでしょ？アレで何とかやってけるんだよ？得意な子、わかりやすく教えてくれるし…。

のぞみ 無理。大体、理系の女子がいや。何か皆、自立してて、妙に自信ありげで…。

ミク そんなことない。皆普通の、いい子だよ？

のぞみ 何、それ？

ミク ……え？

のぞみ 何でかばうの？

ミク 別にかばうとか…。



のぞみ ミクはアタシだけの味方じゃなかったの？

ミク (のぞみを抱き寄せて) 大丈夫だよ、のぞみ。

のぞみ (抱きしめ返し) ミク！

ミク アタシがついてるから。

のぞみ ……うん。

ミク ずっとアタシが守ってあげるから。

のぞみ ……ゴメン。

ミク ……今に始まったことじゃないでしょ？

のぞみ メンド臭いね。アタシって。

ミク 何言ってるの。中学からの親友でしょ？

のぞみ ……ね？

ミク 学校はダメ。誰が見てるか、わかんない。

のぞみ だったらウチ行こ。

ミク 今日は、ゴメン。塾があつて…。

のぞみ ……塾、入ったの？

ミク うん。詩織と一緒に…。

のぞみ げ。…トンボ。

ミク ……え？

のぞみ 赤トンボ。

ミク ……どいつ？

のぞみ  
ほら、そこ。

そこへ赤トンボが現れる。

ミク  
…ホントだ。

のぞみ  
キモい。早く行こう。

ミク  
ちよっと待って。捕まえる。

のぞみ  
は？…何で？

ミク  
トンボの複眼見たいの。

のぞみ  
…は？

ミク  
見たら、すぐ離してあげるから。

のぞみ  
ミク。アンタ、やっぱ理系だね。

ミク  
(捕まえようとしながら) …は？何？

のぞみ  
トンボとか、マジで無理。先、帰るね。

ミク  
すぐ済むから。ちよっと待ってて。一緒に帰ろ。

のぞみ、走って行く。

ミク  
ちよっと、のぞみ！…あ、止まった。

赤トンボがミクの頭に止まる。

ミク  
ちよっと、そこじゃ複眼見えないんですけど…。

ミク、赤トンボを捕まえようとするが、手を止め、

ミク  
ホントだ。鳴ってる、心臓。…ドク。ドク。ドク。…あれ？意外とゆっくりなんだな。アタシの心臓。…ドク。ドク。ドク。…。

心臓の音、高まり、暗転。

## 7. 誤解

教室に詩織がいる。  
問題集を解いているが、バツばかり。

―1996年―

…。

詩織、おもむろにカバンから菓子パンを取り出し、かじる。  
かじりながら、〇×をつけるが、パンがおいしくてそれどころではなくなる。  
そこへ神田がやって来る。

…!?

神田、気づかれないように机に向かう。

机から、単語帳を取り出す。  
パンを食べ終えた詩織、カバンからさらにゴソゴソとパンを取り出す。

…あつた。

…え?

…いや、ちよつと忘れ物して…。

…そう。

あのさ…

…え?

あ、詩織さんから、どうぞ…。

…え?

…どうぞ。

…あのね?知ってるって思うけど、脳って、眠ってる間も休むことなく働き続けているじゃん?

詩織  
神田  
詩織  
神田  
2人  
神・詩  
詩織  
神田  
詩織  
神田  
神田  
詩織  
神田  
詩織  
神田

神田 ……え？あ…：そうなの？…：あ、そうだよね？

詩織 うん、そうだよ。だって脳が止まったら、イコール「死」だもんね。

神田 ……うん。

詩織 ……で、ね？脳はそのエネルギーのすべてをブドウ糖に頼ってるわけ。でも脳はブドウ糖を自分で貯めておくことはできないのね？つまり、脳にはね、常にブドウ糖を補給してやる必要があるの。それでね？…：だから、今補給してたところ？…。

神田 ……ああ。パン。

詩織 うん。…（持っていたパンを差し出し）あ、食べる？

神田 ……いや、いい。

詩織 そう。（差し出したパンの袋を開け）…：あ、コレは違うの。帰りの分。（カバンにしまう）

神田 詩織さんって、看護志望だったよね？

詩織 え？…：うん。でも、最近医学部にも興味あつて…。

神田 マジで？医者になるんだ？

詩織 医学部って言っても、病理の方？…：ほら、今の脳の仕組みとか、本読んでたらおもしろくつて…。

神田 マジで、スゴイよ。

詩織 でも、たぶん無理だと思う。ウチのお父さん、古くつて、女に学問なんていらん、つていうタイプだから。

神田 ……ああ。

詩織 だから看護婦。短大か、専門学校。

神田 いや、でも医学部目指して欲しいなあ。男でも聞いたことないし。

詩織 神田くんはどうなの？

神田 ……え？

詩織 志望の学部。

神田 ああ、オレは普通に工学部。ロボット工学とか…。

詩織 ああ。リアルにガンダム作りたかったっていうヤツ？

神田 え？…まあ。…コレってありがちなあ？

詩織 まあ。世代だからねえ。

神田 ありがちなあ。何気にショックだなあ。

詩織 …で、何だっけ？

神田 …え？

詩織 アタシ、言ったから。

神田 …あ。あのね？…アレ、違うから。

詩織 …アレ？

神田 いや、誤解されても仕方ないんだけど。マジ、それ、誤解だから。

詩織 それって？

神田 いや、だから、こないだの…？

詩織 こないだの？

神田 だから、その…土屋との…。

詩織 ああ。キス？

神田 いや、キスじゃない。

詩織 いや、キスしてたよ。それもかなり激しく…。

神田 いや、だからアレはちよつとふざけ半分で…。

詩織 は？ふざけ半分でキスしたの？アレは遊びだったの？

神田 いや、遊びっていうとアレなんだけど…。

詩織 2人は愛し合ってるんじゃないの？

神田 ……え？

詩織 2人はゲイなんじゃないの？

神田 ……やっぱり。

詩織 だって、あの光景見たら…。

神田 詩織さん、まさか、皆に言った？女子に…？

詩織 言ったよ。見たままを報告した。

神田 マジか…。

詩織 皆、多少は動揺したけど、最後には暖かく見守ってあげようねって…。

神田 どうりで。あの日から女子の視線が違ったもん。

詩織 どんな風に？

神田 汚いものでも見るような視線を覚悟してたのが、皆、異様に優しくなったもん。

詩織 だって皆、応援してるもん。

神田 だから違うんだって…。

詩織 皆大きくうなずいたよ？神田くんと土屋くんならお似合いだって…。

神田 やめろ！土屋は知らないけど、少なくともオレはノーマル。

詩織 え？じゃ、土屋くんの気持ちはどうなるの？

神田 いや、土屋もノーマルだって。

詩織 本当に？本当にそう言い切れる？神田くんの遊び半分なキスで、土屋くん、目覚めちゃったってことはない？

神田

え?…ああ、言い切れない。

詩織

でしょ?アレからアタシ達も特に2人は注意深く観察してきて、最近土屋くんの神田くんに向ける視線が妙に熱っぽくなってきたことに気づいたの。神田くんは感じてないの?

神田

…言われたら、そんな気もしてきたあ。

詩織

ね。変わってきたでしょ?

神田

うん。確かにあの日から変わった気がする。女子の視線と、土屋の視線。

詩織

だって実際変わったんだもん。

神田

でも無理。土屋、許してくれ!アレは事故なんだ。

詩織

事故?

神田

少なくとも女子の誤解は解いて。

詩織

土屋くんの誤解は?

神田

それもできれば。2組の女子皆さんのお知恵を借りて。

詩織

じゃ、まず確認。本当に神田くんは違うのね?世間の目とか気にしてるんじゃない?

神田

違います。オレはやっぱ女が好きです。

詩織

女?女のどんなところ?

神田

何つつうか、女子の、男にはない、柔らかいっていうか、スベスベっていうか…。

詩織

は?じゃ、毛深い女子は嫌いなもの?

神田

いや。…でも、この際女子なら毛深くてもいいです。ツルツルの男子より、ポーポーの女子の方が…。

詩織

じゃ、髪の毛は?長い方?短い方?

神田

は?できれば長い方で…。

詩織  
じゃ、背は？高い子？低い子？

神田  
背は、ボクより小さければ……。ま、ボクより高い女子って、あまりいないと思うんですけど……。  
詩織  
じゃ、目は？大きいとか、切れ長とか……？

神田  
クリクリとぱっちりした目の方が……。

詩織  
体型は？やっぱグラマーがいいの？

神田  
いや、胸は、むしろ小ぶりな方が。大きくても、扱いに困るんで……。

詩織  
なるほど。じゃ、他には？容姿以外にも、性格とか？

神田  
やっぱ決断力のある人がいいです。自分が優柔不断なんで……。

詩織  
なるほど。お姉さんタイプ？

神田  
まあ。で、喜怒哀楽がはっきりしてる人。

詩織  
「はっきり。」って、じゃ、切れたりしてもいいんだ？

神田  
はい。でも、さっぱりしてて、あと引きずらない人。

詩織  
……なるほど。

神田  
あと、いつも笑顔で。でも、頭も切れて……。

詩織  
欲張るねえ……。

神田  
で、何よりご飯をたくさん食べる人。

詩織  
あはは……アタシみたい。

神田  
はい。中でも菓子パンをおいしそうに食べる人。

詩織  
へえ……。アタシもパン、好きだよ？

神田  
……はい。



詩織 …アレ？

神田 …はい。

詩織 …え？

神田 そうです。詩織さんです。

詩織 …。

詩織、おもむろに神田に近づく。

神田 あ！…あの、すみません！

ぶたれる覚悟で身を固くする神田に、詩織、キスをする。

神田 …え？

詩織 …あのね。神田くん…。

神田 …はい。

詩織 キスって言うのは、生物学的にいうと、口の中に存在するバクテリアを交換して、相手が自分の持っていない免疫のバリアを持っているか、また健康状態や生理学的相性が合うかを試す、いわばテストみたいなものでね…。

神田 …テスト？

詩織 そう。だって免疫学的にはさ、「同じ免疫のバリア」を持っている個体より、自分にはないバリアを持つ個体の方が…うん。やっぱ違う。

神田 …え？

詩織 テストとか、そんなじゃない。

神田 …は？

詩織 そんなじゃないから…。

詩織、走って出て行く。

神田

…いや、そんなんじゃないって。…じゃ、どんなんだよ？

神田、詩織の荷物をまとめ、教室を出て行く。

誰もいない教室。

そこへ人影―三沢である。

三沢、一人立ち尽くし、

…カンちゃん。

音楽（バーバラセクサロイド／戸川純）

2組の女子達も加わり、踊る。

## 8. 三沢家

三沢の家のリビング。  
姿見に映る自分をうっとり見ている。

―2016年―

…。

そこへ、息子の洋平がやって来る。

…お母さん？

…あ、洋ちゃん。

…何？

え？…あ、いや、これは違うの。あ…ホラ、アレ。もうすぐハロウインじゃない？  
ハロウイン？

う、うん。で、皆で仮装パーティーやろうって。

皆って？

三沢

うん。友達よ。…この制服着てた、同級生。

洋平

三沢

洋平

三沢

洋平

三沢

洋平

三沢

三沢

洋平 中学？

三沢 高校。お母さんの青春。

洋平 青春って。お母さんにあったの、青春なんて？

三沢 そりゃ、あるわよ。アンタもこれから楽しくなるわよ。中学、高校って…。

洋平 何かメンドくさそうだよ、中学って。部活とか、受験とか？

三沢 どうして？そりゃ受験は大変だけど、部活は楽しいよ。お母さん、軟式テニス部。あ、今、ソフトテニスって言うの？

洋平 いいよ部活は。帰宅部で…。

三沢 は？何、今からそんなこと言ってるの？

洋平 で、何？ハロウィーンにわざわざ買ったの、それ？

三沢 え？…ううん。これ、本物よ。実際お母さんが高校で着てたヤツ。

洋平 マジで？とってあったの？

三沢 うん。スゴくない？この歳になってまだ着れるのよ？お母さん、高校時代と体型変わってないってこと。これ、スゴイことなのよ？普通、皆太っちゃって、絶対着れないんだから。

洋平 いや、でも、普通着る必要なくね？

三沢 …え？そりゃ、ま。そうだけど…。

洋平 ま、いいか。今日はおばあちゃんいないから、羽伸ばせるもんね。

三沢 …え？何、それ？どういうこと？

洋平 いつもそうじゃん？おばあちゃんがないと、外食だったり、一人で映画行ったりしてるじゃん？普段できないこと？

三沢 …チクリ屋。

洋平 …は？

三沢 いつもそうやって、アタシのこと、おばあちゃんにチクってるんでしょ？知ってるんだから。

洋平 だって、お金になるんだもん。情報料？

三沢 マジで？

洋平 どう？対抗して、口止め料？

三沢 誰が、そんなお金。いいよ、しゃべればいいじゃん？

洋平 逆に無理でしょ？お金もらっても話せないよ。イタ過ぎる。

三沢 ……え？

洋平 いい歳して、セーラー服着てうっとりして……。

三沢 別にうっとりなんか……。

洋平 いいから、早く着替えて。友達、来るから……。

三沢 わかってるわよ。……ね、友達って、ウチ来るの？

洋平 ……うん。

三沢 一ノ瀬くん？

洋平 ……一ノ瀬はいない。

三沢 どうしたの？最近、全然一ノ瀬君来ないじゃない？昔はしょっちゅう遊んでたのに……。

洋平 そうかあ？

三沢 何で？勉強もできて、スポーツだって……。

洋平 アイツとはグループ違うし。

三沢 グループ？男の子にもグループとかあんの？

洋平 グループってか、気が合う、合わないってあるじゃん？

三沢 何？一ノ瀬くと気が合わなくなっちゃったの？

洋平 気、っていうか、センス？一ノ瀬とか、ダセえし……

三沢 で、誰なのよ？今日来るグループ？

洋平 知らないヤツだよ。

三沢 そんな知らない子、ウチ上げないわよ。誰？

洋平 だから……

三沢 ……三上君？

洋平 ……そりゃ、三上もいるさ。

三沢 ……洋平。

洋平 ……え？

三沢 三上君はイヤ。

洋平 ……は？

三沢 あの子はダメ。何か、三上君と付き合いだしてから、洋平変わったよ？

洋平 あのさ……

三沢 ……何？

洋平 三上だけだよ。アイツ、言うほどワルじゃないよ。

三沢 ……え？

洋平 皆がついていけないだけなんだ。

三沢 どういうこと？

洋平 ギャグのセンスとか？確かに常識外れって思われるかもしれないけど。そのギリギリスレスレのところがかっケーんだ。

三沢 何言ってるの？

洋平 ……え？

三沢 ギリギリストレスなんかじゃない。完全に飛び越えちゃってるじゃない。

洋平 それは……。

三沢 あの万引きだって……。

洋平 ……またその話。

三沢 皆、神妙な顔してるのに。あの子1人笑ってた。あの状況で何が笑えるの？

洋平 何か、おかしかったんだろうね。彼的に……。

三沢 何も笑えないよ。どうかしてるのよ、あの子。

洋平 友達の悪口、言うなよ。

三沢 犯罪に巻き込む子なんて、友達じゃないでしょ？

洋平 ……違う。

三沢 違うじゃないでしょ？三上君に言われてやったんでしょ？仕方なく……。

洋平 ……違う。ただの「ノリ」だよ。

三沢 ノリで万引きなんてできる？

洋平 あのとときは、そういう空気だったの。

三沢 どんな空気よ？ゲーム万引きする空気って？

洋平 ……忘れた。

三沢 お母さん、三上君とは席や班、離してして下さいって、沢田先生にあれほどお願いしたのに……。

洋平 勝手に余計なこと、すんなよ！

三沢 だってアンタ、絶対おかしくなった。言葉遣いだってそう。「ノリ」と「空気」とか、そんな大人みたいな事言って……。何、これ、反抗期？小6でもう来ちゃったの？

洋平 ……別に。オレは何にも変わってないし。

三沢 そんなことない。塾も辞めたし。一緒に出かけなくなったし。ご飯食べたら、すぐ自分の部屋行っちゃうし。

洋平 面白いと思うことが変わったただけだよ。

三沢 アタシだけじゃない。おばあちゃんだって、絶対変化に気づいてる。

洋平 あのさ。…おばあちゃんには言っていないよね？

三沢 ……言えるワケないでしょ。お父さんにも言っていない。

洋平 だよな？自分も責められるから。

三沢 ……は？

洋平 自分の立場、考えなよ。オレはばあちゃんについてる。お父さんだって、ばあちゃんの言いなりだろ？おばあちゃんがお母さんを取るワケないんだから、お母さん、オレにつくしかないんだよ？

三沢 また、そんな口の利き方。子供のくせに。…三上君のせいね。

洋平 ……だから違うって。

三沢 そうよ。だってそれしか考えられない。万引きしたのも、言葉遣い変わったのも、成績下がったのも、皆、三上君のせいなのよ！  
やめろって！

洋平、母親を殴る。

三沢 ……何？何するの？

洋平 ……友達の悪口、頼むからやめてよ。

三沢 アンタ。親に向かって、何すんの？

三沢、洋平を殴る。

三沢

いやあ！こんなのいやあ！

三沢、洋平を殴り続ける。洋平はされるがまま立ち尽くす。

三沢

戻って。元の洋ちゃんに戻って！アタシの選んだシャツ着てくれた洋ちゃんに戻って。アタシの作ったハンバーグ、おいしい、おいしいって食べてくれた洋ちゃんに戻って！

洋平

…。

三沢

返して！洋ちゃんを、アタシの洋ちゃんを返して！三上！三上！三上！

シャツター音とともにフラッシュが光る。

2人

…え？

そこへ男子3人が現れる。

三上

あ…はい。どうも。三上ですけど…。(写メを見て)…お。スゴい画撮えれた。

3人

(スマホの画面を見て口々に) ホントだ。マジすげえ。

三沢

…何？

洋平

…三上？…どうして？

三上

いや、どうしてって。呼ばれたから。三上って…。

三沢

…三上君？

三上

三上でーす。「ダブリ」って呼んで下さい。

三沢

「ダブリ」？

三上

1度転校して、また戻って来たんで。おい、お前らも…。

川辺

あ、ども。川辺です。

三上

バカ。何、マジメに自己紹介してんだよ？芸名、芸名。オレがつけてやったヤツ。

川辺

あ。「おませさん」です。



三上 毛が生えるの1番早かったんで…。

川辺 いや、やっぱ「おませさん」はハズいよ。

三上 じゃ、「さん」取るか？「おませ」の方がいい？

川辺 全然変わってないだろ？

3人 あははははは…。

三沢 何もおもしろくない。…で、この子は？

三上 あ、お母さん、コイツ見えます？

三沢 え？…もちろん。

三上 俺たちのには、「見えない」って設定なんですけど…。

三沢 …え？

三上 おい。よかったな。お前のこと、見えるって。自己紹介。

妖精 妖精です。

三上 見たまんまです。

三沢 これのどこが妖精？

妖精 おい、おい。妖精なんてようせいよおって言うてるんですけどね…。

皆 …。

三上 ごめんなさい。もうこうなると俺たちもお手上げで…。基本、無関係ってことでお願いします。

三沢 …わかった。見えないフリすればいいのね？

三上 で、サカモツちゃんは「ソプラノ」。何気に声、高いから。

洋平 やめろよ。お袋の前で芸名はキツいよ。

三沢 …お袋？

洋平 いいの。…で、お前ら、何でウチにいるんだよ？

三上 いや、だって約束したでしょ？…てか、呼んだのお前だぜ？

洋平 そりゃ呼んだけど、いつ来たんだよ？

三上 え？…いつだ？結構部屋で待ったよな？

川辺 1時間くらい？

洋平 部屋？お前ら、オレの部屋にいたの？

三上 おお。急遽ドッキリやろうって。「テッテレー」ってヤツ。

洋平 だって、どっから入った？

川辺 窓だよ。鍵開いてたから。

三沢 は？窓から入ったの、アンタ達？

三上 だってお母さん、玄関から入ったら、「ドッキリ」にならないでしょう？

三沢 いや、他人の家で「ドッキリ」なんてこと自体…。

川辺 で、こっちはソプラノ入って来るの待ち構えてるのに、全然2階上がって来ないし…。

三上 そしたら、下から、「三上、三上」って、オレの名前連呼されたんで下りて来たんですけど。何、やってたんすか？

三沢 え？…何って、コッチだって、色々と…。

川辺 喧嘩ですか？何か激しい感じでしたけど…。

三上 バカ。こんなコスプレで喧嘩するかよ？

三沢 …コスプレ？

洋平 …コント。

皆 ……コント？

洋平 うん。クリスマス会でやるっかなって。ホラ、何かやるうって言ってたじゃん？

三上 ……ああ。

洋平 そのネタ作った。で、お袋に手伝ってもらって…。スケ番出てくるヤツ。

川辺 スケ番かあ。

三上 ポイね。ポイよ。昭和な感じで…。

三沢 は？それ、褒めてないよね？

洋平 そしたら、お袋、本物の制服着てくれて。取ってあったんだって…。

皆 マジで？

三沢 いや、マジだけど…。

三上 高校時代のセーラー、今着れるんですか？

三沢 ……ま。そうだけど。

三上 すげえよ。ウチの母ちゃんなんか、絶対無理だよ。太っちゃって。

川辺 ウチも。もう、ウエストつてもんがないもん。ズドンって…。

三上 いや、これもう奇跡っすよ。

三沢 これは何か、褒められてる？

洋平 ……で、ちょっとエキサイティングしちゃって。な、お袋？

三沢 いや、そのお袋っての、背伸びし過ぎでしょ？

三上 いや、さすがソプラノのお母さん。そこまで体張ってくれるとは…。

三沢 はあ。…何だっけ？アレ？忘れちゃったよ。何で揉めてたんだっけ…？

三上　もう1枚、写メいいですか？

三沢　え？写メ？

三沢、ピースで写真を撮られる。

三上　いや、ノリいいすね。じゃ、お母さんの芸名はコスプレノリ子。

三沢　嫌だ、そんな芸名。

皆　あははははは……

洋平　もういいよ。お袋イジられるの、たまんないって。部屋行こう。

三上　そう、そう。部屋見てもらわないと。1時間かけた力作だし。

洋平　いや、ドッキリって言っちゃったら、もうドッキリじゃないでしょ？

三上　いや、いや。それは見てのお楽しみ。

洋平　絶対おどろかねえし……

洋平と2人、三沢と妖精を残し、2階へ上がって行く。

(洋平)　おおおっ！？何だあ、こりやああああっ！？

(2人)　テツテレっ！

(洋平)　おいっ！こんなの……。これ、どうすんだよお……！？

(2人)　イエーイ！大成功ーっ！

残された三沢と妖精。

三沢　……

妖精、動き出す。

三沢 …妖精さん。

妖精、舞台に椅子とフレームを持つてくる。

三沢 妖精さん？

あ、俺か。…はい？

三沢 洋平って、いつもあんな風なの？

え？…まあ、あのまんまですが。…なぜ？

だって家では、あの子。あんな風じゃないから…。

妖精 (作業をしながら) そりゃあね。学校では多少のキャラ設定は必要ですから…。

三沢 …そういうもんなの？大変なのね、小学生も。

妖精 大変ですよ。小学生も。

とか、いいながら、セッティングを完了させる。

さて、と。…では、準備整いました。

…あら、いつの間に。

三沢 妖精ですから。

ありがとうございます。優しいのね。

妖精 妖精ですから。

三沢、スカイプを立ち上げる。

妖精、動かず、三沢のスカイプに興味津々である。

妖精 お。スカイプですか…？

三沢 そうだけど…。

妖精

スカイプって、TV電話なんですよね……

三沢

そうだけ。……で、いつまでいるの？

妖精

……え？ボクのこと、見えてます？

三沢

当たり前よ。どっか行つて。ここからは大人の時間。

妖精

……わかりました。では、退場ー。

妖精、やっとなでていく。

出て行ったのを確かめて、三沢、神田にアクセスする。

### 9. SKYPE (3)

神田、フレームを持って現れる。

ー2016年ー

……そりゃ、妖精君の言う通りだよ。

……え？そうなの？小学生でキャラ設定？

ああ。特に男はね、「敷居を跨げば7人の敵あり。」って言ってね。外に出たら、気苦労ばかりでクタクタなんだよ。家でまで、サービスなんかできないね。しかも母親に。

は？一番サービスしなきゃいけない相手じゃない？

まあ、そうだけ。男は外の顔と家の顔があるからね。

何かつまんない。家ではムスツと仏頂面なのに、外ではあんなにニコニコ弾けてて。学校の様子なんか何も話してくれないんだよ？他の子のお母さんから、回り回って情報が流れてきたりするの。で、ウチの子、学校じゃそんなことやってるの……。

そういうもんだよ、男子って。

ホントに男ってそういうトコつまんない。女の子なんてさ、聞いてもないのに、ベラベラ学校の様子話すって聞くよ。

だから男はね、表で頑張るためにはね、家では十分休憩しなきゃなんないの。

何？カンちゃんも、あの子の味方？

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

神田 そりゃ、同性ですから。そして、オレもそんな感じだったよ、きつと。

三沢 でもさ、中には男の子にもいるんだって。ペラペラ学校の話する、おしゃべり男子。「ウチの子、何でもフランクに話してくれるのよ。」とか言っちゃって。で、「え？奥さん、知らないの？」とか驚かれちゃったりして…。

神田 まあ、いるだろうね。そういう子も…。

三沢 「息子にバースデープレゼントもらった。」とか、自慢気に話す母親もいてさ。ああ、シヤクだなあ…。

神田 あははは…今日は大荒れだなあ。

三沢 え？あ…ゴメン。何だか、愚痴ばっかで…。

神田 いいよ。でもさ、反対よりいいんじゃない？

三沢 何？反対？

神田 家でペラペラしゃべって、学校では人と何にもしゃべれない子？

三沢 …ホント。やだ、それ。何かゾツとした。

神田 でしょ？…大丈夫だって、洋平くん。男として極めてノーマルな成長。

三沢 うん。…そうだね。何か、そんな気もしてきた。

神田 そうそう、元氣出して。

三沢 うん。ありがとね、カンちゃん。

神田 いえ、いえ…。

三沢 あ、そうだ。夕飯食べた？

神田 え？…まあ。

三沢 食べてないんですよ？

神田 夜はさ。大抵スナックかな…。

三沢 スナックって、ちゃんとまともなモン、食べてんの？

神田 ああ。行きつけだからさ、色々わがまま聞いてもらえるし…。

三沢 ……ね？こないだ言ってたけど、奥さん、まだ帰ってこないの？

神田 え？…ああ、そうだね。

三沢 食事とか、どうしてんの？

神田 まあ、基本、外食かなあ。あと、コンビニだってあるし。

三沢 ええ？三食、外食かコンビニ？

神田 いや、北海道だから。そっちより美味しいモン、たくさんあるし。

三沢 心配だよ、カンちゃん。そんな暮らししてて、身体壊したら…。

神田 大丈夫だって。

三沢 でもさあ…。

神田 それにしても、マジで変な感じ。

三沢 ……え？

神田 その恰好。セーラー服。

三沢 あ！やだ、アタシ、あの子たちにチャホヤされて、ずっとこのカツコのまんまだった。

神田 誰も突っ込み、入れないのかよ？

三沢 よかったあ。お義母さん、帰ってきたら、何言われるか、わかんない。

神田 今日はお義母さん、いないんだ。

三沢 お友達と歌舞伎だって。いいご身分なこと。旦那も出張で留守。ああ、これから夕飯作んなきゃ。  
神田 そっちこそ、こんな遅くに夕食なんて。



三沢 ま。ピザでも取るかなあ。その方が子供、喜ぶし……。ホント、人のこと、言えないね？

神田 それ、本物なんだろう？制服。

三沢 ……え。うん。偶然取ってあって……。

神田 マジで、あの頃のまんまだな。

三沢 え？いや、子供たちには昭和とか、スケ番とか、散々でさ……。

神田 そりゃ、しょうがない。昭和だもん。

三沢 ちよつと、あんまり見ないですよ。シミとか小じわとか、結構ヤバいんだから……。

神田 そんなことない。お前、マジでアレだな。「時をかける少女」？

三沢 ええ？いや、「時をかけるおばさん」でしょ？

神田 いや、いや。まだ「少女」で行けるって。

三沢 マジで？……あ、いけない。ババア、そろそろ帰って来る。着替えなきゃ。

神田 わかった。それじゃ、おやすみ。

神田 神田、スカイプを切る。

三沢 え？……いや、あの、ちよつと、カンちゃん……？

三沢 三沢、姿見を眺め、

三沢 ……少女かあ。

三沢 ブルー暗転。

三沢 10・3番ホーム

電車の発車音。  
明るくなると、そこは駅のホーム。  
そこへ、のぞみと岡本、クラスメートのレイと、その彼氏の翔太が談笑しながらやって来る。

ー1996年ー

のぞみ

・・・10万円？

レイ

うん。(封筒を取り出し)・・・使い道考えてよ。

のぞみ

いや、そんな大金持ったことないから・・・。

レイ

シャネルのお財布でも買っちゃおうかなあ。欲しかったんだあ、前から。

岡本

え？レイさん、シャネラーっすか？

のぞみ

で、そんな大金、どうしたの？

レイ

・・・ちよっと、ね。

岡本

レイさん、シャネル持ったら、次、アムラーっすね？

のぞみ

アンタ、いいから。

岡本

ズバリ。目指すはシノラーですか？

のぞみ

テツちゃん、お願い。黙ってて。

翔太

オヤジ狩りだよ。

のぞみ

は？マジで？

岡本

・・・オヤジ狩り？

レイ

声デカいよ。

のぞみ

(岡本をド突き)・・・ゴメン。

岡本

痛て。・・・何？

のぞみ

テツちゃんは無理に話、入って来なくていいから。

岡本

いや、だってスゲェじゃん？おやじ狩りって、東京の渋谷で流行ってるなんて聞いたけど、まさかこんな身近にあるなんて・・・。

翔太 おう。駅前のバスターミナルな？

岡本 いや、何か時代の最先端っていうか……。

翔太 ま、一応、流行りものには手、出しておくっていうか？

のぞみ でも、暴力はマズいよ。犯罪だよ？

レイ いや、そんなんじゃないかと。罰金っていうか、慰謝料？

のぞみ 何、それ？

翔太 いや、アレ、口止め料でしょ？

のぞみ 口止め料？

レイ 実はね。アタシ、そいつに帰りの電車でお尻触られてさあ……。

岡本 痴漢だ。

のぞみ アンタ、よく遭うよね。

レイ ホント。もう7回目かな？

岡本 のぞみは？

のぞみ 一回も。

岡本 やっぱり。

のぞみ 何、それ？どういう意味？

レイ あんまり続くから、あったま来ちゃってさ。あとつけてやったの。

岡本 尾行じゃん？

のぞみ また無茶するね、アンタ？

翔太 まあな。尾行なんてマジ、刑事みたいじゃん？ドキドキして、シヨンベンちびりそうだった。

のぞみ は？そんな時、翔太もいたの？

レイ いたよ。アタシがお尻触られてる間、前の席で寝てた。

のぞみ 寝てた？

翔太 電車座ると、何か眠くなんねえ？

岡本 それはマズかったですね、翔太君。

レイ で、つけていたら、そいつ、バスターミナルで止まってさ。ビデオカメラ取り出したの。で、バス待ってる女子高生の後ろに並んでさ……。

のぞみ ……盗撮だ。

レイ そう。アタシもピンと来て、スイッチ入れた所で声かけたらさ……。

岡本 逆上して、襲いかかってきた？

レイ いや、それがその場でへたり込んで、土下座よ。

2人 土下座？

のぞみ 何、そいつ？

レイ で、封筒取り出して、これで警察は勘弁してくれって……。

のぞみ で、受け取ったの、アンタ？

レイ アタシが思うに、何か、別の使い道があったお金だね。封筒にピン札きっちり10枚でさ……。

のぞみ てか、そこまでして何で警察突き出さなかったの？ビデオ撮ってたんでしょ？

レイ うん。ま、そうなんだけどね？何か年格好とか、ウチのお父さんくらいでさ。その人にもアタシらみたいな娘がいると思うとさ……。

翔太 レイはそういうとこ、あるよな？そういう、お人好しな所。

岡本 何か、イメージ違ったな。オヤジ狩りって言うから、もっとバイオレンスなヤツかと……。

翔太

のぞみ

翔太

岡本

レイ

のぞみ

岡本

3人

岡本

レイ

岡本

レイ

のぞみ

レイ

岡本

翔太

岡本

翔太

のぞみ

いや、土下座のおっさんの前に仁王立ちのレイ見たら、マジ、バイオレンスだって。「もうしないんだな?」「もうしないって誓え!」って、超恐え……。

で、アンタは何してたのよ、その間?

オレはアレだよ。……見張り?

翔太くんって、見た目とギャップあり過ぎですね?

じゃ、悪いけど、警察、付き合ってくんない?カラオケの前に……。

え?そりゃ、いいけど……。

でも、マジでそのお金、どういう扱いになるんだろ?

……え?

だって、脅して取ったワケでもないし。向こうから渡してきたわけだし……。

ま、そうだけ……。

その痴漢野郎に返すにも、連絡取れないんでしょ?

うん。

だからといって、警察に没収つても筋が通らなくない?

それもそうだよね……。

じゃ、もしこのままもらえたら、パーツと使っちゃわない?カラオケで?

いや、いや。いいです。自分達で払います。

山本君は見かけ通りのマジメだね。

はい。よく言われます。……あと、山本じゃなくて、岡本です。

のぞみはこういうのがいいんだ?  
……は?……こういうのって?

翔太  
のぞみ

男。…付き合ってるでしょ？

違う、違う。付き合ってるんじゃない。

(岡本に) 完全否定なんすけど…。

はい。ただの幼なじみです。

ちえ。ちよつと、来い。

…は？

いいから、来いって…。

あ、ちよつと…？

教えてやるよ。

…何を？

彼女との距離の縮め方。

…は？

じれってえなあ。好きなんだろう、のぞみのこと？

え？そりゃ…まあ。

「まあ」じゃねえだろ、この野郎？ホコるぞ、この！

…す、好きです！

だろ？だからオレが極意を教えてやる。ちなみにオレは一気にチューまで行つたぞ。

マジですか？一体どうすれば…？

簡単だよ。2人でピンチに立つんだ。

…ピンチ？

「何とか効果」って言うてよ。2人でピンチを乗り越えた時、その距離は驚異的に縮まるんだよ。TVでやった。ああ、「吊り橋効果」？

おお。それ。効果、ハンパないぜ？オヤジ狩りるときがそうだった。

ま、厳密には「狩って」はい wasn't でしたけどね。

別れ際に、チューだよ。

てか、チューって、あんま言うほど一気な感じしませんよね？一気になって言ったら…。

で、悪いんだけどよ。金、貸してくんない？

え？この流れで？

カラオケ代。さつき定期買っちゃって…。

何か、翔太君って、いい人なんだか、悪い人なんだか…。(財布を出す)

1,000円でいいからさ。

(1,000円を渡し) …あ、そうだ。1つ、聞いていいすか？

何？

ちよつと誰にも聞けないんで、翔太君に聞くんですけど…。

聞けよお…。

あの…。チューの時、舌って、どうやって入れるんですか？

…は？バカ言え。知るかよ、そんなこと。

だって、さつきチューしたって…。

バカ。俺たち、付き合ってたまだ3ヶ月だぜ？まだホッペにチューだよ。

…は？

翔太  
岡本

もう一つ、教えといてやる。恋に焦りは禁物だ。一步、一步、すそ野を上って行く感じで。いいな？

(小さい声で) 勝った！オレ、コイツには勝った！(ガッツポーズ)

翔太、もらった千円札をキレイに畳んでにポケットに入れる。

…ねえ、アレ、誰？

レイ  
のぞみ

…ええ？

あの子。コッチ、手え振ってない？

高見にミクが現れる。

のぞみ

…ミク。

岡本  
のぞみ

のぞみ、ミクさん、手、振ってるよ？

…うん。

レイ

ミク？

同じクラスの子ですよ。あ、でもボクはほとんど口、きいたことなくて。のぞみは仲いいんだろ？

岡本  
のぞみ

え？…まあ、中学まではね…。

あれ？でもホーム、反対じゃない？

塾じゃない？行き始めたって、言ってた。

塾？アタシ達とは行き先、真逆だね？

ホントだ。

皆

あはははは…。

岡本

ねえ。また手え振ってるよ？振り返してあげなよ。

のぞみ

うん。…いいよ、別に。



レイ 翔太 翔太 皆 レイ 翔太 翔太 2人 レイ のぞみ レイ のぞみ 岡本 翔太 のぞみ ミク のぞみ

ま、女には色々あるからさあ。

じゃ、ここはオレが……。

やめな。気味悪がるよ？

そっか……。

あはははは……。

……ね、見て、あそこ。

……何？……ミクちゃん？

違う。もつと右。……アイツ、昨日の痴漢野郎じゃない？

ホントだ。アイツだ。

マジで？

また盗撮？

ホントだ。ビデオ持つてる。懲りないなあ……。

もう許さない。行くよ。

わかった。

じゃ、ボクは駅員呼んで来ます。

ああ。頼んだ。

3人、走り出す。

のぞみも続こうとするが、思わず立ち止まる。

……ミク。

やっと気づいてくれた。

ミク  
…え？

のぞみ  
さつきから、ずっと手え振ってたんだよ？無視されたかと思ったよお。

ミク  
…ゴメン。ミク。

のぞみ  
でもよかった。のぞみ、笑ってて…。

ミク  
…え？

のぞみ  
安心した。

ミク  
ゴメン。アタシ、またウソついた。

のぞみ  
大丈夫だよ、もう。アタシなんかいなくても。

ミク  
そんなことない。

のぞみ  
だって、いるじゃない。一緒に帰る友達。

ミク  
…ねえ、またアタシを抱いて。そしてキスして。

のぞみ  
キスなら、あの子とすればいい。

ミク  
…え？

のぞみ  
ウチのクラスの岡本君。…知ってたよ。付き合ってること。

ミク  
…違うの。

のぞみ  
本当のキスは男の子とするんだよ。

ミク  
彼は違うの。…レイに彼氏がいるから、ちょっと対抗しただけで…。

のぞみ  
でも、キスしたんでしょう？アタシ、噂で聞いたよ？

ミク  
ちゃんと説明する。そっち行くね？

のぞみ  
いいよ。来なくて。

ミク  
のぞみ

…え？  
だつてコッチには、のぞみの嫌いなトンボがいるから。  
…トンボ？

ミク

音楽。  
無数の赤トンボが飛んで来る。

もう秋だねえ。ホラ、赤トンボがこんなにいっぱい飛び出した。

間もなく3番ホームに通貨列車が参ります。

黄色い線の内側に下がってお待ちください。

間もなく3番ホームに通貨列車が参ります。

黄色い線の内側に下がってお待ちください。

危険です。黄色い線の後ろにお下がりください。

列車が通過します。至急お下がり下さい。

赤トンボ

赤トンボの1人、警告の笛を鳴らす。

早く！下がって！危ない！

赤トンボ達、がミクの身体中に止まる。

…きれい。トンボの複眼。夕焼けを反射して、プリズムみたい。

ミク  
のぞみ

ミク！下がって。ミク！

のぞみ、走り出す。  
一人残されたミク。

ミク

下がる？…でも足動かないよ。…何だか疲れちゃった。ずっと走ってきたから？…お母さん、今日は塾休む。ゴメンね、電話しない。ゴメンね。お母さん、お弁当残して。ゴメンね、お母さん。まつすぐ家、帰らなくて。ミク、動けない。何もしたくない。勉強もしたくない。友達にも会いたくない。ゴハンも食べたくない。眠りたくもない。なのに…どうして？…どうしてまだ、鳴ってるの？アタシの心臓…。

トンボ達

…ドク。ドク。ドク。ドク。

ミク

鳴るだけ無駄だよ。楽にして。アタシが止めてあげるから。

トンボ達

…ドク。ドク。ドク。ドク。

ミク

でも、どうやったら、止まるの？この心臓。

トンボ達

…ドク。ドク。ドク。ドク。

ミク

(胸を無茶苦茶に叩き) 楽になりたいの。誰か！誰か、止めて！いいから止めて！

トンボ達

…ドク。ドク。ドク。ドク。

ミク

…お母さん。ゴメンね。…お母さん！…お母さん！お母さん！お母さんっ！

トンボ達

…ドク。ドク。ドク。ドク。ドク！

ミク

…止まった。

ミクの伸ばした人差し指に1匹の赤トンボが止まる。  
ミク、その赤トンボをうつとりと見つめる。

…アタシの指に、赤トンボ。

(のぞみ)

のぞみの叫び声。

ミクううううう！

赤トンボ、不意に飛び立つ。

あ。待つて…。

ミク、手を伸ばす。  
唐突に電車の通貨音。  
暗転。

## 11. 2人の律子

リッコ

誰もいない。  
と、そこへ38歳の律子が、私服でやって来る。

…ねえ、見て、これ。カワイくない？

誰もいない。

リッコ

今日、誕生日だったじゃん？…で、もらったんだあ。…サプライズ？

誰もいない。

リッコ

ま、誕生日に会うんだからさ。何かはあると思ってたけど、ね。

誰もいない。

リッコ

…あれ？いないの？

高見のフレームに、高3の律子が入る。

…。

律子

…なんだ、いるじゃん。

リッコ

…そりゃあ、いるよ。

律子

ねえ、彼氏にバースデー・プレゼント、もらった。

リッコ

はあ、そりゃよかった。

律子

何？その、リアクション。もっと我が事のように喜びなよ。我が事なんだから。

リッコ

全然興味ないし。…あ、いくつになった？

律子

38歳。

リッコ

痛いよ。38歳にもなって、その喜び方。女子高生じゃん。

律子

女子高生のとき、こういう喜び方できなかったからねえ。

リッコ

律子

リッコ  
何、それ、イヤミ？

律子  
ねえ、見て。

リッコ  
ああ、見た、見た。

律子  
もつとちゃんと見て。

リッコ  
…はい、はい。…アレ？

律子  
…何？

リッコ  
趣味変わった？…アイツ。え…と、名前、何だっけ？…アキノリ？

律子  
…やだ、アキノリなんて、とつくに終わってるよお。…今のは、ノブアキ。

リッコ  
は？アキノリの次はノブアキ？…確かその前が…。

律子  
タカノリ。

リッコ  
何で、皆4文字？男、名前で選んでる？

律子  
まさか。偶然だよ。あ、でもまた年下つてのも偶然か…。

リッコ  
また？で、今度はいくつよ？

律子  
29歳。いよいよ20代に突入。

リッコ  
マジで？恥ずかしくない？

律子  
全然。やっぱいいよ、若いって。グイグイ来るから。勢いが違う。

リッコ  
何か怪しくない？お金目的じゃない？

律子  
その覚悟はできている。そして貯えもある。

リッコ  
きつと陰口叩かれてるよ、まわりから。

律子  
え？年下キラーだって？いいよ、そういう陰口、大歓迎。

リッコ

しかも、サイクルほとんど短くなって来てない？だって、アキノリの報告から…。

律子

3週間。またまた記録更新。ついにひと月切ったよ？

リッコ

それ大丈夫なの？

律子

何かさ、この歳になって、モテ期到来かも。

リッコ

38歳でモテ期って、痛過ぎでしょ？

律子

アタシの場合、下積みが長かったからさあ。…ね、律子ちゃん？

リッコ

…別に。コッチにその気がなかっただけ。

律子

また強がり言っちゃって。やっぱいいよ、モテるって。

リッコ

ああ、ウザい。もう閉じなよお。つてか、イチイチ、彼氏の報告とかもういいから。

律子

何言ってるの。アタシは少しでもアンタの励みになればって…。

リッコ

は？親切なの、これ？

律子

もちろん。人生、捨てたもんじゃないって。律子ちゃん？決して希望を捨てちゃダメ。アナタはみにくいアヒルの子なの。

リッコ

ああ、2次元じゃなかったら、手が出るよ。

律子

だから今は辛抱。せつせと勉強して高学歴を手に入れ、なりふり構わず仕事をなさい。20年も経てば、立派な白鳥となって羽ば

リッコ

つてか、その変身、お金で買ってるだけじゃん。

律子

だから、それ、シーっ…！

リッコ

25歳から、1パーツずつ、整形して…。

律子

最初はまぶたね。クッキリ二重まぶたにしてもらった…。

リッコ

…アタシはこの切れ長一重が好きだったのに。

そしたら、何だか人生がググって動いた感じがしたの。それまでビクとも動かなかったアタシの人生が。

律子

リツコ

そっからはどんどん勢い増していったね。  
そうよ。だって、どんどん人生が動いていったんだもん。もう止められない。……鼻筋。あご。顔の輪郭からボディーラインに至るまで、完全に総入れ替え。

律子

リツコ

ボディーラインまでは目をつぶろう。でも、身長はどうよ？コレは無理ありすぎでしょ？

律子

リツコ

あと、声もね。現代の美容整形の技術はここまで到達したってこと。

律子

リツコ

ま、ブツちゃげ、別人なんだけど。

でも、別人になりたかったんだろ？

律子

リツコ

ええ。だから、パーツを換えるたびにアタシは卒アルを開いた。パーツをやる度に1歩、また1歩、アタシから離れて行くのを実感したかったから。

律子

リツコ

アタシ、アタシが嫌いだったからな。

ええ。何もかも他人のせいにして、自分では何もしないで、ただ世の中をやぶにらみしてたアタシが大嫌いだった。

律子

リツコ

丁度いい。アタシもアタシが大嫌いだ。

そうやって、いつまでも負け惜しみ言っつてな。でもね、これだけは言っつておく。男つて生き物は実に単純だ。外見重視。中身は二の次だ。

律子

リツコ

……やっぱりそうか。

それじゃ、コレでお別れだ。

律子

リツコ

……え？

アタシの総入れ替えもこれで完了した。こっからは逆にアタシが邪魔になる。

律子

リツコ

彼氏に卒アル見られたら、バレちゃうもんね？アタシは実はアタシだったってこと……。

律子

だから、卒アルは失くしたことにする。つて言うか、失くす。



…は？

リッコ、ライターを点ける。

…さよなら、アタシ。

…ちよつと、待て。卒アル、焼いちやうの？

…もう、2度と会うことはない。

熱いのか、マジ勘弁なんすけど…。

…今日からアタシが、本当のアタシ。

待った！…アタシだけじゃないんだよ？…ひかるも、詩織も、美津紀も、皆とも2度と会えないってことなんだよ？  
いい。別に興味ない。

だよねえ。…何、これ？絶体絶命じゃん！

…さよなら。

ミクは？

…え？

ミクだよ。アンタ、ミクのことまで、燃やしちやうの？

…ミク。

あんなに泣いて。あんなに悔しがってたのに。もう忘れたの？

…ミク！

リッコ、火を吹き消し、走り去る。

…ほんと、バカだね。アタシ。

音楽。(オーロラB／戸川純)  
ブルー暗転。

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

律子

リッコ

## 12. ミクの母

雨音。

―1996年―

2組女子がやって来る。  
明るくなると、そこはミクの家。  
全員、正座し、ミクの遺影に合掌している。

ミクの母親が出て来る。

今、お紅茶、煎れますね。

あ、どうぞ、お構いなく。すぐに失礼しますんで…。

1、2、3…8人ね。あ、カップがバラバラになっちゃうけど、いいわね…。

いえ、お母さん、本当に…。

お葬式も、ホントにありがとね。あの時はロクにごあいさつもできなくて…。

…いえ。

9、10、11、12…。もう4ヶ月も経ったのねえ。

…はい。

あの日も、こんな土砂降りだったわねえ。

…はい。

知ってたでしょ？あの子、昔っから雨女で…。

ですよ。ミクと出かけると、朝は晴れてるのに、帰りは必ず雨が降って…。

…ひかる！

ひかる

詩織

母

ひかる

詩織

母

詩織

母

詩織

母

詩織

皆

母

皆

母

詩織

母

律子

美津紀

ひよつとして今日の雨もあの子の仕業？。

あり得ます。修学旅行も雨で、ミクと一緒にの部屋だったんですけど、ウチの部屋だけ雨漏りがして。もう、ちよつとした超常現象でした。

…ひかる！

そうなの。ウチもあの子の部屋だけ、やたら雨漏りがして…。

やっぱ本物ですね、それ…。

皆、三沢の口を塞ぐ。

あ…お母さん。

…はい。

担任の金子先生から、お返事はうかがいましたが…。

卒業アルバムのこと…。

何とか、お許し願えないでしょうか。

…。

一緒にミクの写真、掲載させていただけないでしょうか。

お願いします。

それは…できないわ。

…。

だって、あの子は卒業できないんだもの。

いえ、それは…。

卒業アルバムって、卒業するから、載れるんでしょう？

アタシ達、クラスに女子9人しかいなくて。だから、何をやるにもいつも一緒に…。



詩織

いえ。本当に結構です。…行こう。

律子

詩織、立とうとするが、立てない。

…どうした？

母

…うん。ちよつと…。

どうかした？

律子

…足？

皆

さわらないで！さわったら、グーで殴る！

詩織

…は？

律子

…いえ、ゴメンなさい。何か、足がしびれて…。

さやか

は？ちよつと、何やってんの？…あれ？やだ、アタシも。  
ヤバイ。アタシもだ…。

母

皆、足がしびれて立てない。

詩織

皆、正座なんて慣れてないもんね。

三沢

カッコ悪いなあ、もう…。

律子

…あ、ミクが笑ってる！

三沢

ひかる！

母

(ミクの遺影を指さし) だって、ホラ…。

三沢

それともアレかしら？ミクが紅茶飲んでけて、引き留めてるのかしら。

母

いや、それまどろっこし過ぎるでしょ？

母

じゃ、あの子のリクエスト。お紅茶、付き合っあけて下さい。

…すみません。

…あら、やだ。…雨漏り？

…え？

…あれ？ここも。

冷たい！…ここも。

ちよつと、待って。そんなバカな。だってこの上、2階よ？

マジで…？

あり得ない。…何で、何で、この部屋が雨漏り？

…ミクじゃない？

…え？

じゃなければ、とんだ欠陥住宅だ。

ひかる！

でも…どうして？

そりゃ、リクエストでしょ。卒アル載りたいっていう。

ひかる、マジでやめて！

だってそうとしか思えない。

…わかりました。

…は？

ひかるサンの言う通りかもしれない。

…え？



詩織

この子のいない3年2組は本当の3年2組じゃなくなっちゃうもんね？

母

…はい。

この子のそんな大切な証をアタシ、もう少しでなくしてしまう所だった。それをあの子は必死で止めたのね。…雨まで降らして。

母

皆、天井を見上げる。

わかったよ、ミク。この雨、あなたの望みと受け取りましょう。

母

…え？

詩織

今度はコチラからお願いします。あの子をアルバムに載せてやって下さい。

母

…お母さん。

詩織

ずっと、あなた方のクラスメートでいさせて下さい。

母

…もちろんです。

詩織

じゃ、紅茶、煎れて来ます。

いただきます。

三沢

母、部屋を出て行く。

…ミク、やったな？

三沢

律子に、雨粒が落ちる。

皆

…あ、冷て。

三沢

…。

…ミクうっ！

音楽。(いちぢめ／戸川純)

ブルー暗転。  
三沢を残し、皆、出て行く。



神田、入って来る。

### 13. Skype(4)

雨音。

明るくなると、SKYPE中の神田と三沢。

―2016年―

…ミクか。アルバム、載ってて何も違和感なかったけど、そんなことがあったんだ。

…うん。アレ以来、超常現象、ガッツリ信じるようになった。

…へえ。

だからね、今日みたいに雨の日は、つい天井見上げちゃうんだ。雨漏りしてないかって。

へえ…。そっちも雨なんだ。

…え？

いや、天気予報はそっち晴れて言ってたから。

え？…ああ、うん。昼間は晴れてたけど、夜になったら急に降り出して。…にわか雨？

なあ、三沢…。

…え？

…大丈夫？

…は？

もう大分遅いよ。またお姑さん、とか。

今日は大丈夫。…実は派手にやり合って、今日はビジネスホテルにプチ家出。

…マジ？今、どこ？

どこだと思う？

三沢

…は？

神田

「来ちゃった。」

三沢

…え？

神田

…実は、北見に来てたりして。

三沢

…マジで？

神田

…あ、今、ちょっと困ったでしょ？

三沢

いや、そんなこと…。

神田

…なんてね。ウソ。

三沢

…は？

神田

大丈夫。そんな迷惑かけないよ。

三沢

いや、迷惑とかじゃなくて…。

神田

カンちゃんの方こそ。明日、仕事早いんじゃない？

三沢

大丈夫。じゃ、朝まで語り合う？

神田

いいねえ。

三沢

ね？…そう言えば、前にもこんな風に話し込んだこと、あったよね？

神田

…そうだったけ？

三沢

あ、忘れちゃった？…うんとね、一緒にクラスだったから、高3だよ。教室の前の廊下で…。

神田

…うん。

三沢

…アレだ。保護者会の三者面談、待ってる間。夏休み前？

神田

違う。冬だよ。冬服だった。

三沢

え？…ああ、じゃ、冬の保護者会か…。

神田

それも違う。忘れてるのそっちじゃん。実は…はつきり覚えてる。

三沢

…え？

場所は2組の教室前の廊下。センター試験の後だよ。受験校決める面接の時。

音楽。（「眼球綺譚」／戸川純）

#### 14. 面接の前

―1996年―

そこは3年2組前の廊下。

三沢は退場し、神田が1人椅子に座る。

神田、センター試験のデータリサーチに見入っている。

一つタメ息をつくると、単語帳を取り出し、開く。

…。

…あれ？まだ？

…（単語帳を閉じる）今、10分遅れくらい。

マジで？（教室を覗いて）え？…今って、詩織の番？

…ああ、順番替わった。塾あるからって…。

は？詩織、塾行ってるの？いつの間に…？

学校祭終わってからだって。ホラ、何かその辺りから皆、行き出したじゃん。

何か、シヨック。塾の話なんか、全然聞いてない。今日だって電車で、「ボキヤブラ天国」の話してたし…。

ま、気、つかったんでしょ？センター直後で、皆ピリピリしてるからさあ。

いや。シヨックなのは、アタシが知らなくて、アンタが知ってたってこと。

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢 オレも、今さっき聞いたの、ここで。

神田 で、行きたくなった？

三沢 え？いや、オレはそういうの…。

神田 だよな？アタシも無理。学校で勉強して、放課後も勉強なんて…。

三沢 相変わらず受験、ナメてるよね？大体、学校でも勉強してないじゃん。

神田 は？そんなことない。授業は真剣に聞いてます。

三沢 ノート取ってるのとか、見たことないし。放課だって、純粹に休憩してる。

神田 何かさ、休み時間まで問題集は開けないんだよねえ。マンガか、爆睡。

三沢 でも、なぜか、そこそこできるんだよな。そりゃ皆の視線も厳しくなるさ。

神田 でも、変わったのは、皆の方だし。

三沢 …え？

神田 そんなの昔からじゃない。アタシは変われないよ。こんなことくらいで…。

三沢 こんなことって…何かお前、男前だな。

神田 それホメてんの？全然うれしくない。

三沢 でもさ。マジで、どういうやり方してんの？

神田 …え？

三沢 睡眠学習か何か？

神田 まさか。聞いたことは、(頭を指し)ここに保存するの。…こう、深呼吸して細胞に酸素送る、みたいな感じで…。

三沢 だとしたら、特異体質だけ、それ。じゃ、英語とかどうやってんの？

神田 どうやって、っていうか、アタシはこういうんじゃないかって、本、読んでる。

三沢 ……本？

神田 例えば、英語なら「ナショナル・ジオグラフィック」とか？アメリカの科学雑誌。

三沢 じゃ、全部英語なの？

神田 うん。写真も載ってておもしろいんだ。今、夢中なのは「Vampire Squid」。

三沢 何、それ？

神田 「吸血イカ」？何か、超ヤバイの。エイリアンもびつくりのビジュアルなのに、実は癒やし系なんだ。

三沢 癒やし系って英語で何て言うの？

神田 いや、癒やし系とかストレートには書いてないけどさ、アタシなりの訳？

三沢 それ、意味わかって読んでる？

神田 だいたいだよ。写真多いし。

三沢 でも…何か、スゲえな。

神田 は？スゲくない。とんでもない読み間違いしてるかも。イカって言うってるけど、実はタコだったりとか…。

三沢 案外お前みたいなヤツが、受かっちゃうのかもなあ。

神田 マジで受験、ナメてない？…あはは。

三沢 いや、マジで。実際、小宮のこと、実は尊敬してんだ。

神田 は？尊敬？…何でだろ？あんま、うれしくないよお。もっと他のないの？

三沢 ……三重大志望だったよね？

神田 ……え？

三沢 三重大学生物資源学科。水族館の飼育員になりたいって。…あれから、変わってない？

神田 もちろん。…てか、覚えててくれたんだ。

三沢 え？そりゃ、もちろん…。

神田 カンちゃんのだって、覚えてるよ。名工大。ロボット作るんだよね？

三沢 …まあ、できれば。

神田 何か、久し振りだねえ。

三沢 …え？

神田 …こうして2人で話するの。あのデート以来？

三沢 え？いや、デートって…。

神田 あの時はありがとね。無茶なお願い聞いてくれて。

三沢 いや。オレも水族館ってちよつと興味あったし…。

神田 制服デートって、高校生じゃないとできないじゃん？…だからさ…。

三沢 いや。コッチこそ色々お金、出してもらっちゃって…。

神田 たまにさ、あれ、夢だったんじゃないか、って思うことあるんだ。

三沢 …え？

神田 そんな時はね、コレで確かめるの。プリクラ。ホラ、あの時撮ったヤツ。…見る？（鞆からスケジュール帳を取り出し）

三沢 …いや、ってか、アレ、そんなに気合い入ってるヤツだったの？だったら、もつとさ…。

神田 （見つけて）ホラ。超なつかしい、夏服。9月だよ。まだ暑かった。

三沢 （見せられたプリクラを見て）…お前、近すぎだよ。

神田 アハハ…コレだけ見たら、超ラブラブのカップルだねえ。

三沢 アハハ…ない、ない。

神田 でも、あの日はそうだったじゃん。1日限定スペシャルで。

三沢 いや、でもよく見るとオレ、顔、引きつってるし。(プリクラを返す)

神田 ホントだ。目だけ笑ってない。下手クソだなあ、演技。

三沢 いいよ、俳優、目指してないし。

神田 ……夏服かあ。もう着ないんだあ。

三沢 冬服だって、もう少しだろ？

神田 そうかあ。…あ、そうだ。体育祭の写真もあるよ?…。(見ながら)何かスゴイ昔のことみたい。まだ、4ヶ月くらいしか経ってないのに。(写真を渡す)

三沢 (写真を見ながら)…呑気に笑ってるなあ。コン時のオレに言ってやりたい。「お前、笑ってる場合じゃないぞ！」って。

神田 いいんだよ。体育祭だもん。笑ってなきや。

三沢 そりゃ、そうだけどき…。

神田 ……にしても、遅いなあ、詩織。

三沢 ……うん。もう10分くらい延長してる。

神田 (窓から覗いて)…何か、深刻な感じ。まだかかりそう。

三沢 さすがに時間通りには行かないでしょ、今日の面接は。

神田 え、何で？

三沢 国公立どこ受けるか、コレでほぼ決まりだからね。

神田 決まりって、決まってるでしょ？

三沢 そりゃ、志望校ならね。でも、リサーチの判定悪かったら、替えなきやならないし。

神田 は？替えるって、大学？

三沢 ……うん。きつと金子にも、「無理、無理、もつと落とせ。」って…。

神田 マジ?どこ受けるか、先生にとにかく言われるの？

三沢 とやかくっていうか、アドバイス？

神田 だって、今までずつと、「ま、頑張れや。」「はい、頑張りまーす。」だもん。10秒で終わった。  
三沢 マジで？進路面接が？

神田 金子もさ、わかってるんだよ。アタシに何言ったってどうせ聞きやしないって。時間のムダ？  
三沢 でも、さすがに今日のはマジだよ。学校のパソコンで検索してもらって…。

神田 今日のも、10秒だよ。「三重大受けまーす。」「ま、頑張れや。」

三沢 …お前さ。マジで、センター、どうだったの？

神田 センター？…これ。(リサーチの用紙を取り出して渡す)

三沢 …A判定じゃん。ボーダー、42点も超えてる。

…。

三沢 英語と生物の配点が高いんだ。コレが利いたな。

神田 その2つだけね。あとはボロボロ…。

三沢 2次は得意の生物だし。ま、数学は頑張らないと…。

神田 まあね。…カンちゃんも見せてよ。

三沢 いや、オレはさ…。

神田 何、それ？アタシばつか…。

三沢 いいけど…。お前と違って、E判定ばつかだし…。

神田 (神田から受け取ったリサーチ用紙を見て)…。

三沢 名工大は、無理だ。…得点率55%じゃあな。

神田 …無理って？



三沢 英語で失敗しちゃってさ。…あと、数Iも思ったより取れなかった。

神田 …。

三沢 別のトコにするよ。場所替えれば、まだ何とかあったし…。

神田 …どこ？

三沢 …北見工大。

神田 北見って、どこ？

三沢 北海道の…北の方。

神田 アンタ、北海道行っちゃうの？

三沢 ああ。一応、親にも話した。

神田 何か、突然過ぎるよ。今日まで、一緒に教室にいた人が急に遠くに行っちゃうなんて…。

三沢 大学って、そういうもんだろ？先輩だって、静岡とか、広島とか、外出た人いるし。

神田 でも、北海道って…。

三沢 何か「北の国から」みたいだろ？そうだ。オレも五郎さんみたいに丸太小屋建てよう。で、自給自足の暮らしを始めるワケで…。北見は雪なワケで…。

神田 は？聞いてたのと違う。工学部入って、ロボット作るんじゃないの？

三沢 そうだよ。だから、北見工業大学の社会環境工学部。

神田 何か、学部、微妙に違う？

三沢 だってココならボーダー、55%でジャストだし。多少のズレは目をつぶるさ。

神田 …それでいいの、カンちゃん？

三沢 …いい。

神田  
でも……。

あん時も話したけどさ。オレ、1コ下に弟、いるしさ。父さんの会社も景気悪いみたいでさ。絶対浪人はできないし。理系だから金かかる私大は無理だし。絶対国公立じゃないと……。

神田  
……我慢なんかするんじゃないかった。センター終わったら、すぐに結果、聞けばよかった。何、1人で勝手に決めてんの？

三沢  
バカ言え。お前に相談して、点数上がるわけじゃないし。

神田  
そういうことじゃなくて……。

三沢  
……センター、495点しかないんだぜ。名工大なんて、ボーダーに200点近く足りないんだ。

神田  
そんなの、2次試験で取り戻せばいいじゃん？

三沢  
……は？

神田  
足りない200点、挽回すりゃいいじゃん？

三沢  
でも、2次に英語があるんだ。

神田  
英語、やってるじゃん。

三沢  
こんなん、いくらやったって、覚わんないよっ！

三沢  
神田、手に持っていた単語帳を叩きつける。

……。

神田  
三沢、単語帳を拾い上げる。

三沢  
……ゴメン。

神田  
……(単語集を手渡して) はい。

三沢  
今のは完全に八つ当たりだ。……ゴメン。

神田  
神田、単語帳をバッグにしまって、立ち上がる。

神田  
……何？

順番、譲るよ。ちょっと頭、冷やして来る。金子に言っという。面接、一番最後に回るって。

三沢 神田、バッグを持って去ろうとする。

神田 待って。

三沢 ……

神田 カンちゃん、待ってよ。話、しよ？

三沢 は？勝ち組のお前に話なんて、ないし。

神田 何、それ？勝ちとか負けとか、そういうんじゃないでしょ？

三沢 何、きれいな事言ってるんだ。…勝ち負けだろ？お前は勝って、オレは負けた。それだけのことだよ。

神田 カンちゃん、やめて。

三沢 頼むよ。何か、このままだと、もっと酷いこと言っちゃいそうなんだ。

神田 いいよ。何、言われても、嫌いになんかならないし。

三沢 だから、好きとか嫌いとかじゃなくて…。

神田 ……わかつてる。

三沢 ……は？

神田 わかつてるよ。カンちゃん、詩織が好きなんでしょ？

三沢 ……え？

神田 ホントはここで、詩織のこと、待ってたんでしょ？

三沢 ……わかんねえよ。

神田 ……え？

神田 もう、何もわかんねえよっ！

三沢

神田、走り去る。

…カンちゃん。

音楽！（「パンク蛹化の女」／戸川純）  
小宮の脳裏に、これまでの「あの日」達が、フラッシュバックする。  
すると、反対側から神田が出てきて、フレームに顔を入れる。  
音楽カット。

### 15. Skype(5)

―2016年―

…いや、所々、記憶と違うなあ。

…そう？

オレ、詩織が好きだったんだっけ？

は？キスまでしといて？

キス？

見たよ。2人っきりの教室で…。

…は？ない、ない。そんなこと…。

え？じゃ、アタシの見たのは…？

知らないって。さすがにキスの相手、間違えないでしょ？

アンタはどうかなあ。やりかねないんじゃない？

マジでないって。あと、ずいぶん、嫌々北見に決めてる感じだったけど、本人的には結構ルンルンだったんだぜ？うるさい親から解放されるって…。

マジで？悲壮感ハンパなかったよ？この世の不幸という不幸、独り占めしたみたいな…。

じゃ、今度はオレの記憶で話そうか？

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

三沢

神田

神田　いいよ。アレが違う、コレが違うって、また揉めるだけだよ。

三沢　何か、アレだな？人の記憶って、ずいぶんいい加減なものだな。

神田　そうかもね……。自分の好き勝手に書き換えてるのかも。

三沢　ただ、言えることは、こんなモンじゃないってことだな。

神田　……は？

三沢　あの頃のオレ達。何か、いっちょ前に絶望みたいな顔してるけど、人生そんなモンじゃないってこと。

神田　……そうだね。何か修羅場みたいになってたけど。

三沢　ホントの修羅場ってのはあんなモンじゃない。刃物出て来ちゃうもんよお。

神田　刃物？まさか、女？

三沢　ああ。「別れるなら、死んでやる。」とか、シャレになんなくってさあ……。

神田　よかったあ、さっさと見切りつけて。

三沢　あの頃思っ描いてたのとは、ずいぶん未来は違ったよなあ。大学行ってロボット工学？何、言ってんだ？今じゃ、駅前の不動産屋だ。……そいっつもちよつとトラブって、ただ今、営業停止中。

神田　アタシだって。結局飼育員なんてどこも採用なくて。リケ女のクセして信用金庫勤めて、そのまま職場結婚。バリバリの専業主婦よ。

三沢　……ありがとな。三沢。

神田　……え？

三沢　……あ、ゴメン。坂本サン。

神田　いいよ、三沢で。

三沢　Facebook。声、かけてくれて。

神田　ううん。お葬式じゃ、話どころじゃなかったし。

三沢 …なあ、三沢。何か、あった？

神田 …え？

三沢 いや、しんどいこととか。…何か、そんな気がしただけ。

神田 また、すぐそうやって、優しいこと言う。

三沢 いやあ…。

神田 アンタのいいところで、そして、いけない所。

三沢 …誰かにも、言われたな。

神田 大丈夫。…アンタのに比べたら、全然。

三沢 …そう。

神田 何が永遠だよ？あの時のアタシに言ってやりたい。ホンのちよつと待ったら、t w i t t e rとか、S k y p eとかできて、世の  
中便利になるわけ。離れてたって、こうやって、顔合わせて話、できちやうわけ。

三沢 何か、最初に見たときは痛々しかったけどさ。案外、いい顔に見えてきた、この写真。

神田 …そうだね。インパクト強いよ。開いたら、パツと目に飛び込んでくる。

三沢 こんな風に笑えてたんじゃん、オレ達。

神田 ちよつと無理してるけどね。

三沢 いいんだよ。無理してでも笑ってたらさ、いつかホントに腹の底から笑えるんだ。

神田 じゃ、笑ってみる？

…ああ。

三沢 音楽。「蛹化の女」／戸川純  
2人、フレームに入り、微笑む。

神田 ダメ、ダメ。目が笑ってない。

三沢 お前だって、顔引きつつてる。

神田 大丈夫。：：そのうちホントの笑顔になるから。

：：そうだな。

詩織 2人、微笑む。  
クラスの女子が入ってくる。

さやか (卒アルの自分に向かつて) : : それじゃ、また。

奈美 またね。

あずさ また会えて、ホント、懐かしかった。

律子 楽しかった。

美津紀 なのに何でだろ？ちよつと涙、出てきた。

皆 戻りたいなあ、あの頃に。

詩織 ーあの頃。

真由 キラキラと輝いていたあの頃。

美津紀 怖い物なんて何もなかった、あの頃。

ミク 何もかもうまく行くと信じてた、あの頃。

皆 : : でも、それはできない。

詩織 だってアタシは今、ここにいる。

奈美 だから、これからもそこでアタシを見てて。

さやか 頑張るアタシを。

美津紀 微笑むアタシを。

律子

ウソつくアタシを。

皆

立ち止まるアタシを。

ミク

ずっと見ている。

詩織

それじゃ、おやすみ、アタシ。

真由

さよなら、アタシ。

あずさ

さよなら、教室。

奈美

さよなら、駐輪場。

律子

さよなら、中庭の噴水。

皆

さよなら、昇降口の柱時計。

長い、長い渡り廊下。

ロッカーの扉に書いた落書き。

陽に灼けた掲示板の張り紙。

授業中に回した手紙。

黒板を打つチョークの音。

図書館のにおい。

いつ終わることなく続く放課後のおしゃべり。

春の桜並木。

夏の蝉時雨。

秋にはポプラが黄色い絨毯を広げ、

冬には寒椿の赤が目にしみた、

皆

律子

奈美

さやか

詩織



美津紀

アタシがいた場所。

ミク

そして、2組の皆もお元気で。

詩織

…うん。また会えるの、楽しみにしてる。

美津紀

これを閉じたら、アタシはまたいつものアタシに戻る。

皆

いつ終わるともしれない、あの日々に戻る。

奈美

でも、アタシはあの日々をまた生きていく。

律子

皆も頑張ってるんだし。

あずさ

ここで1人くじけたら、皆に笑われちゃう。

ミク

アタシに笑われちゃう。

律子

いいんだよ、くじけても。

ミク

…ありがとう、ミク。

詩織

ううん。ありがとう、律子。

美津紀

またね、美津紀。

あずさ

うん。詩織も元気で。

真由

バイバイ、真由。

さやか

バイバイ、あずさ。

奈美

さよなら、奈美。

詩織

さよなら、さやか。

皆

さよなら、ひかる。

ひかる。ーまた、いつか。

三沢

S k y p e 画面を見つめる2人。

神田

…それじゃ、カンちゃん、またね。

三沢

…ああ、また連絡する。

神田

約束だよ？

三沢

ああ、それじゃ…。

神田

待って、カンちゃん。

三沢

…え？

神田

アタシ、本当は今ね…。

三沢

…何？

ううん。…何でもない。

フレームの中で、微笑む2人。

---

幕